

[奈良県委託 こども食堂サポート事業]

県内こども食堂の活動に関する実態調査 報告書

令和6（2024）年6月

社会福祉法人 奈良県社会福祉協議会

目次

I	調査の概要	1
II	調査結果と総括	2
III	調査結果の詳細	
1	こども食堂の状況について	3
2	こども食堂でのエピソードについて	28
3	こども食堂の今後の活動について	36
IV	調査票様式（参考）	56

I 調査の概要

- 1 調査の目的 こども食堂の広まりと共に活動内容も多様化しているいま、県内のこども食堂の活動がどのような状況にあるのかを把握し、情報共有等を行うことを目的として調査を実施した。
- 2 実施主体 社会福祉法人 奈良県社会福祉協議会【奈良県事業受託者】
- 3 調査対象 こども食堂実践者：こども食堂を運営している団体・個人
(奈良こども食堂ネットワークの加盟団体)
- 4 調査期間 調査時期：令和6年1月15日～31日
- 5 調査方法 GoogleフォームによるWEB回答および郵送
- 6 回答数 103団体／116団体（≒88.8%）

Ⅱ 調査結果と総括

1 こども食堂の定義

調査実施にあたり「こども食堂」を以下のとおり定義した

- こどもを対象とする無料または低額の食堂で「こども食堂」として運営していること
- こどもだけでなく、保護者や地域の高齢者などを対象とするものも含む
- 必ずしも「こども食堂」という名称には拘らない（「地域食堂」「みんな食堂」という名称の団体もある）

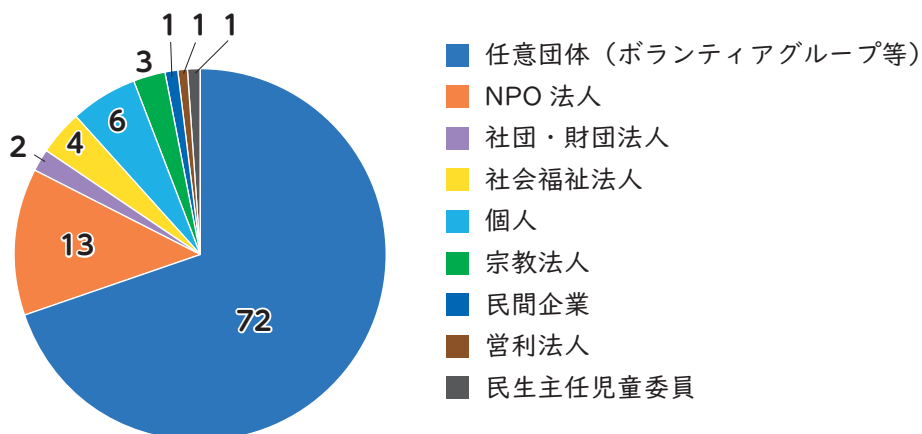
2 調査結果の総括

- 今回の調査にて、こども食堂の活動は会食型での活動と回答した団体が52団体、全体の約50%と前回調査（令和4年12月実施）から大幅に増え、多くの団体が会食型の活動を再開されている。また、会食型と配布の活動を29%の団体が実施されており、会食での活動が再開されても配布を希望する利用者の声が多いと考えられる。
- こども食堂の開催でのお悩み（複数選択）では、感染症対策が34%から16%と減少した一方、資金の不足が35%から44%と増加し、記述回答でも資金面での支援についての回答が多くみられた。
- 地域の関連機関とこども食堂との連携について、83団体、約80%の団体は市町村社会福祉協議会と連携し、こどものみではなく地域住民の方の繋がる場所としての活動としても認知されてきている。その一方で、市町村行政との連携を挙げているのは54団体であり、こども食堂団体への支援に限らず、行政等との連携が必要な利用者へのサポート体制の構築は今後の課題と考えられる。
- 今回の調査では記述設問へも、これまでの活動でのエピソードから現状の課題、今後の支援への期待が多く回答されており、今後のこども食堂サポートへのヒントとした。

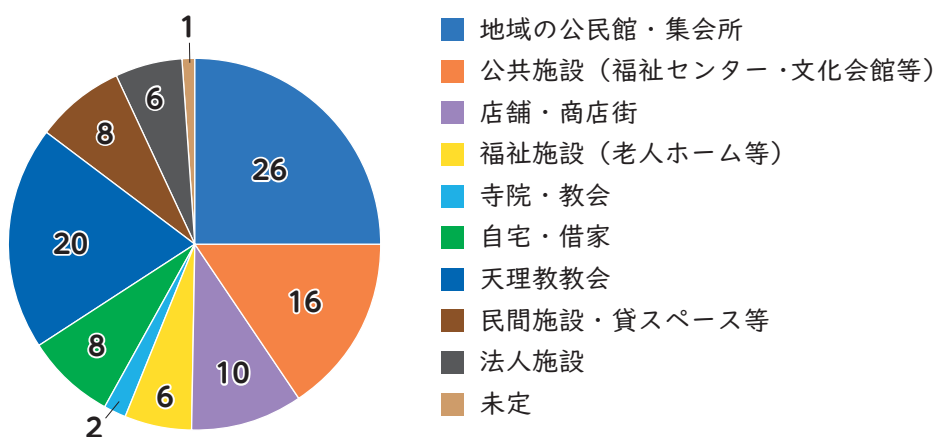
Ⅲ 調査結果の詳細

Ⅰ こども食堂の状況について

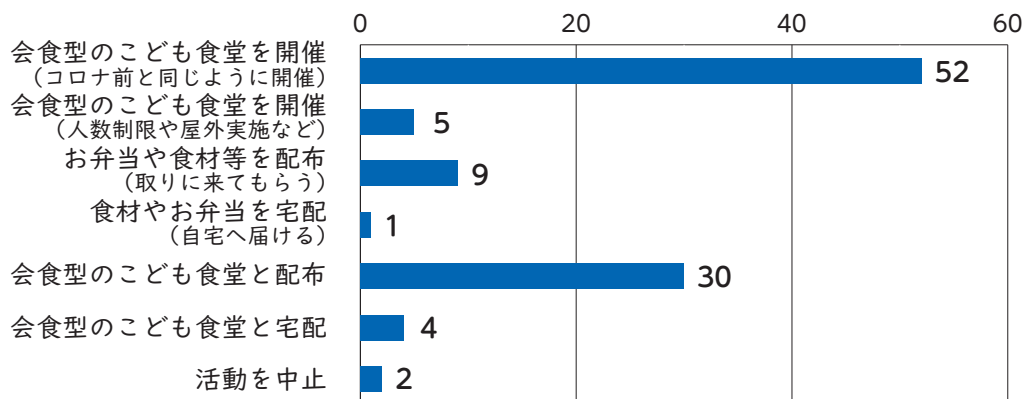
設問2 こども食堂の運営主体の属性をお答えください。



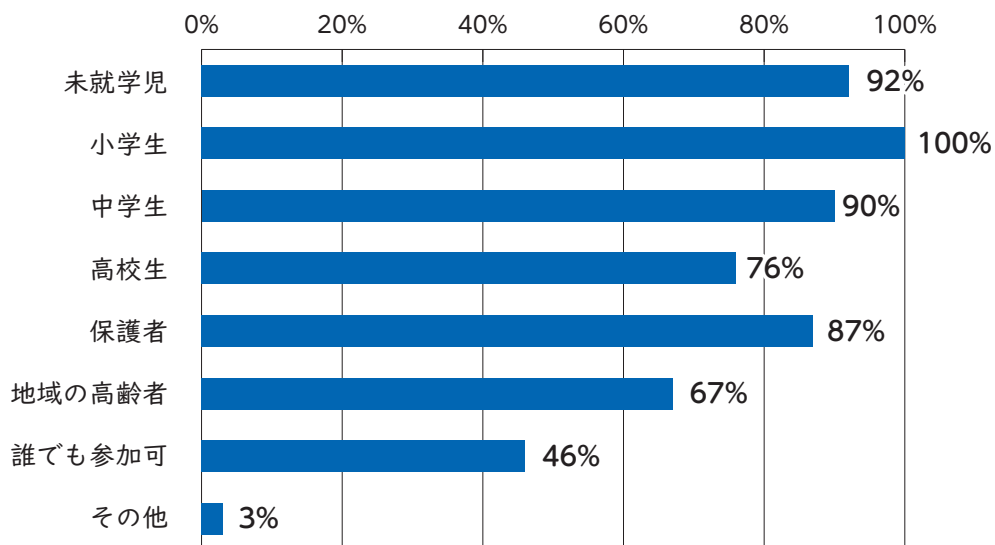
設問3 こども食堂の活動場所をお答えください



設問4 2023年4月以降の活動状況について、この期間の主な活動をお答えください。

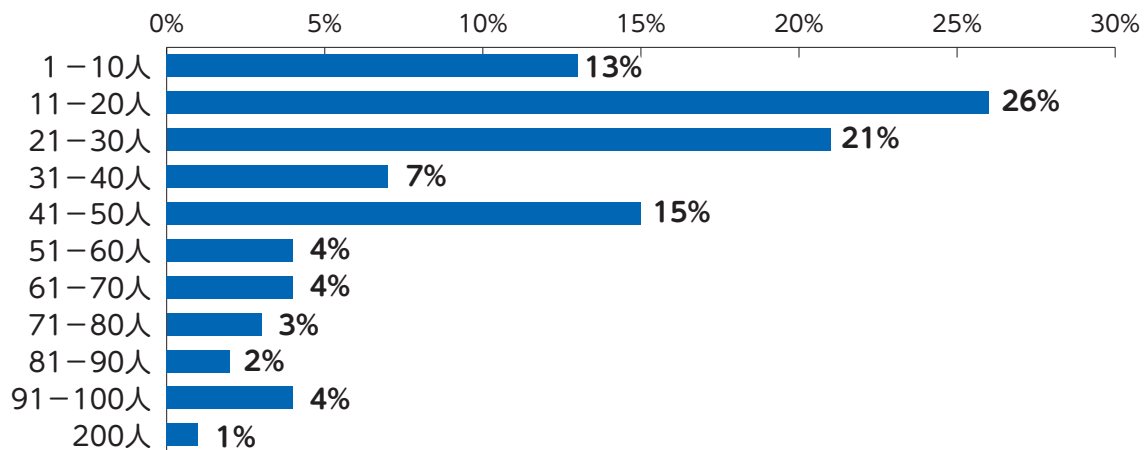


設問5 こども食堂（配食・パントリー含む）の参加対象者 [複数回答]

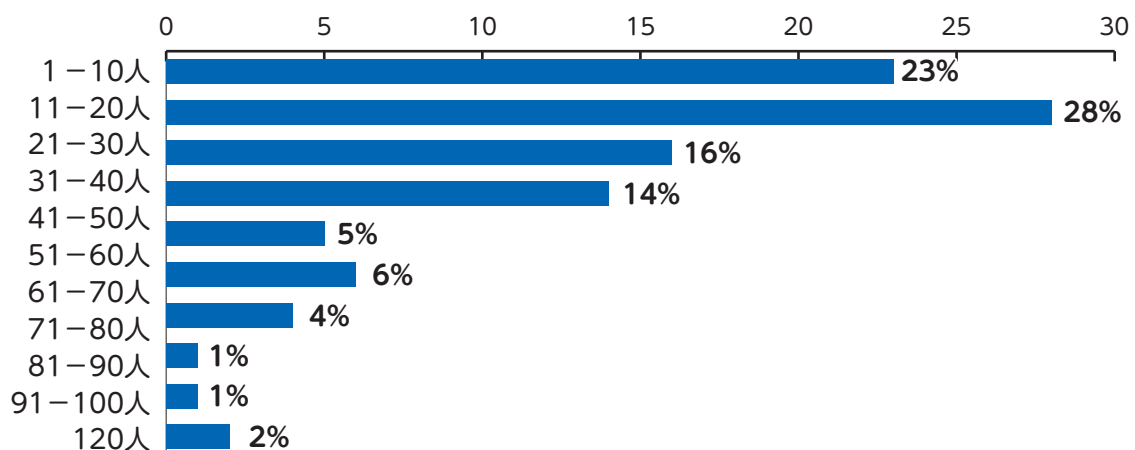


設問6 こども食堂（配食・パントリー含む）平均の参加者数

6-1 こどもの参加者数

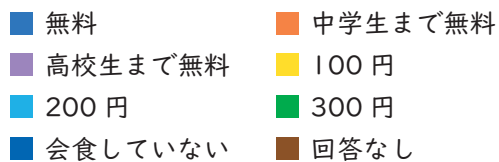
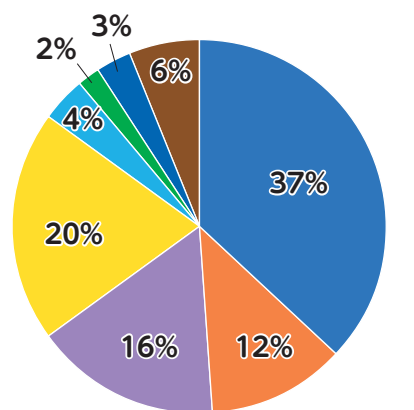


6-2 スタッフを含めたおとなの参加者数

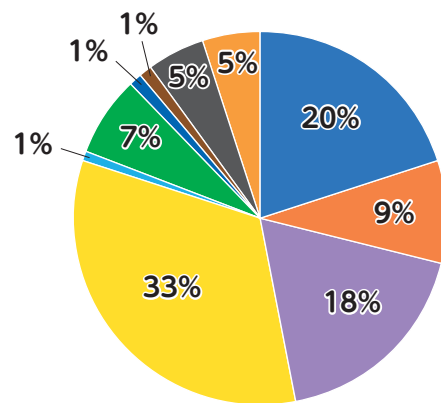


設問7-1 会食での子ども食堂の利用料金

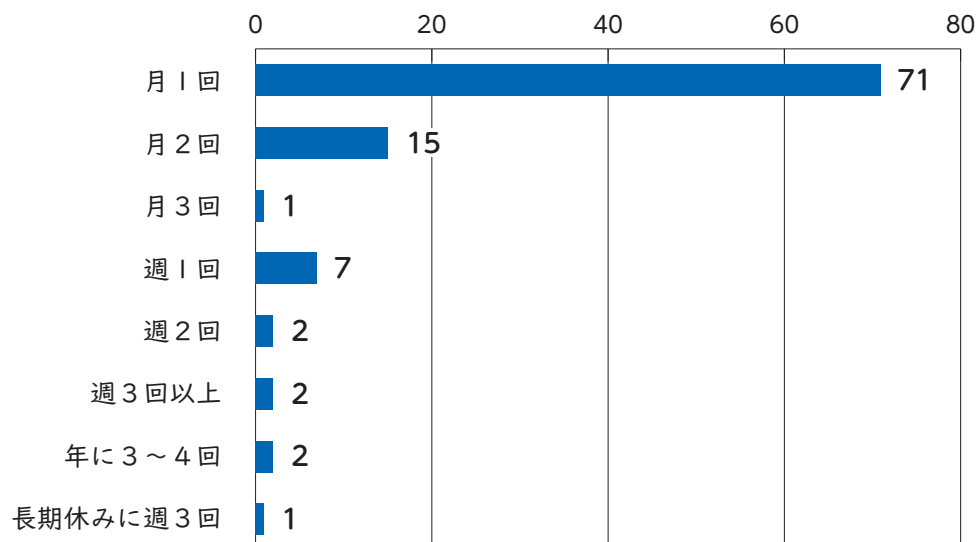
①子どもの利用料金



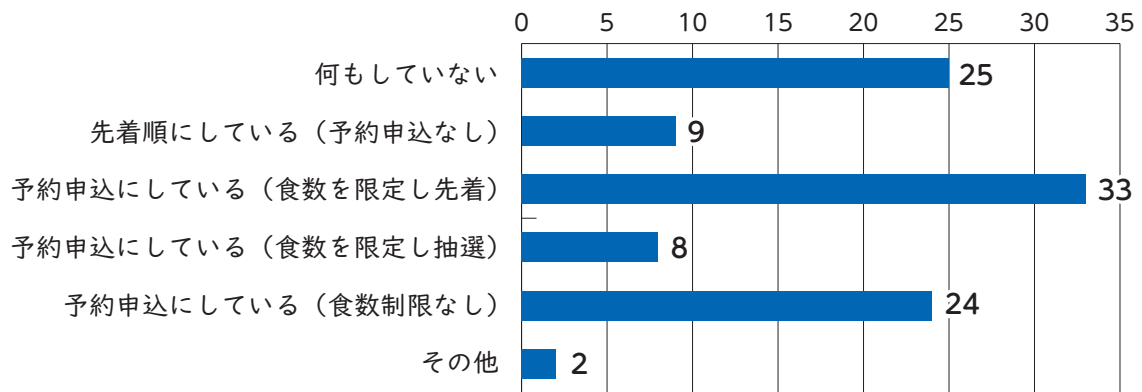
②おとなの利用料金



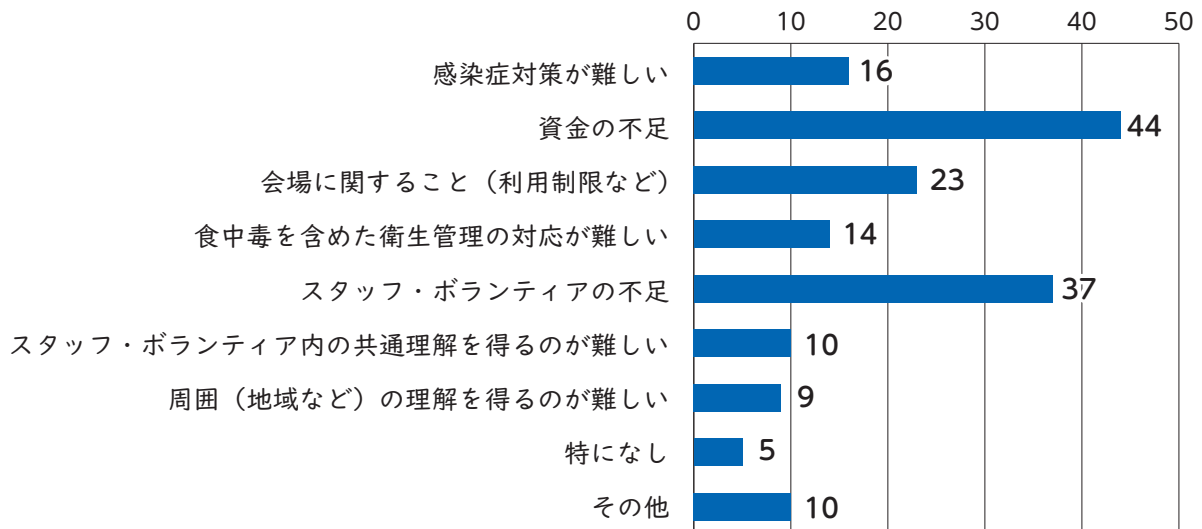
設問8 子ども食堂の活動頻度



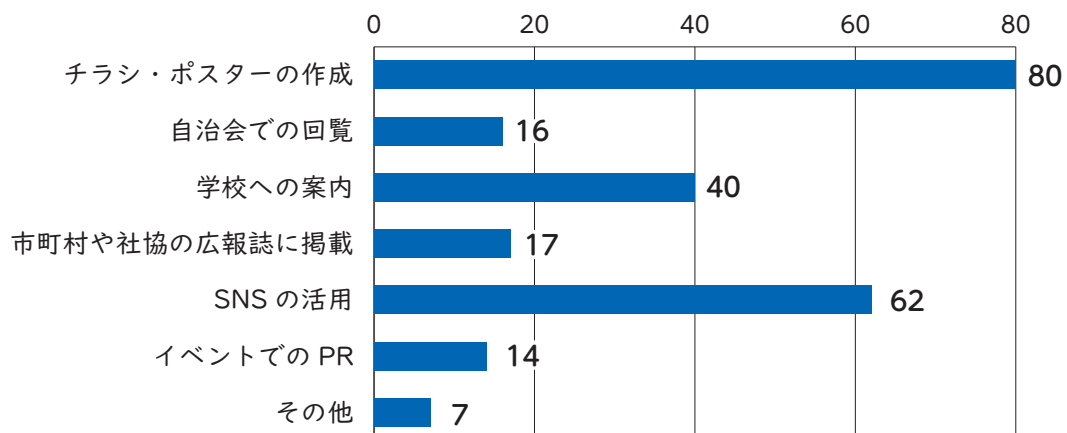
設問10 こども食堂（配食・パントリー）開催時に利用者の調整をしていますか



設問11 会食型でのこども食堂を実施する上での悩みをお答えください

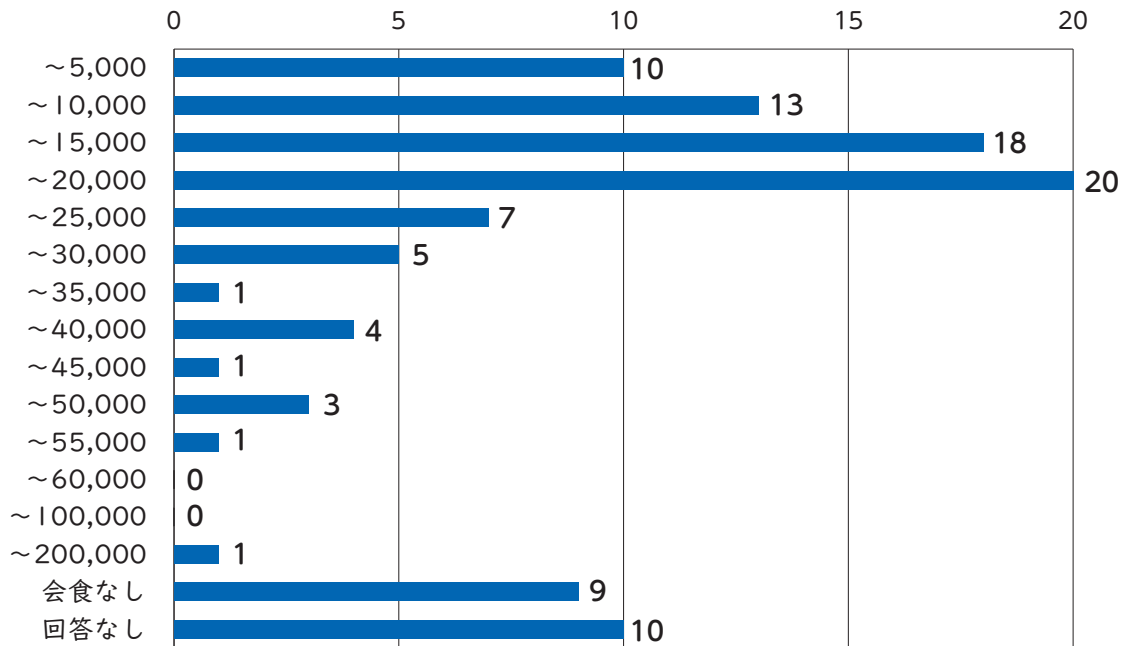


設問12 こども食堂（配食・パントリー含む）を開催するにあたり、広報・情報発信としてどのようなことを実施しますか [複数回答]



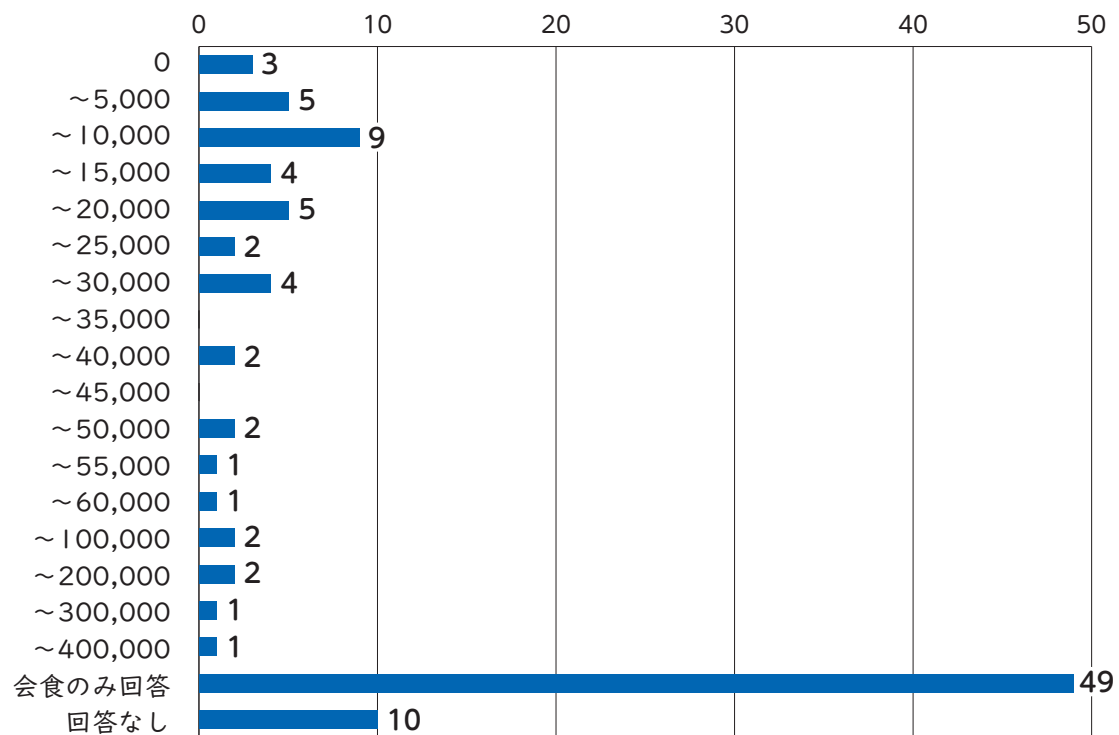
設問13-1 児童食堂（配食・パントリー含む）の活動資金について

①-1 会食での1回平均の運営費（活動費）をお答えください

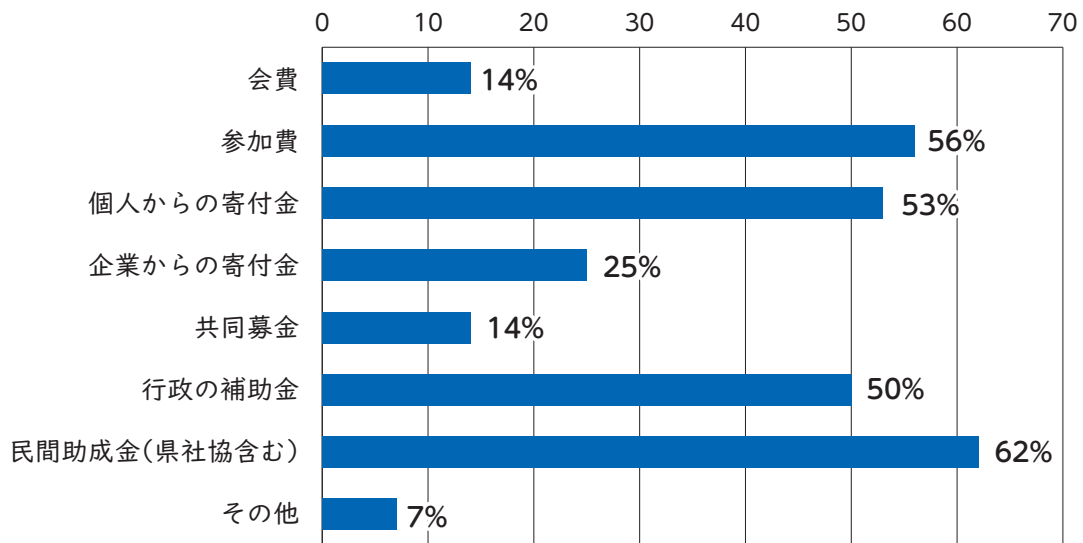


設問13-1 児童食堂（配食・パントリー含む）の活動資金について

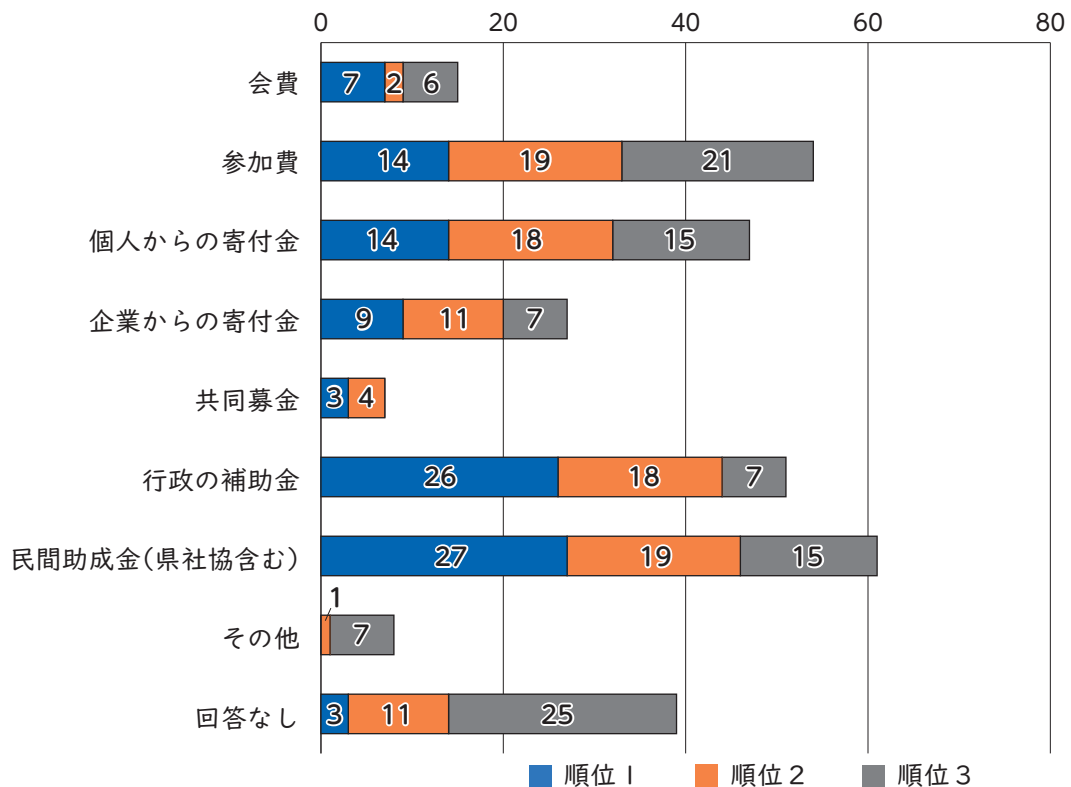
①-2 配食・パントリーでの1回平均の運営費（活動費）をお答えください



設問13-2 活動資金は、どのように調達していますか [複数回答]



設問13-3 活動資金のうちの主になる財源を3つ選択してください



設問13-4 活動資金について、工夫していること、課題に感じられること

ボランティアの負担が大きくなることが課題です。

助成金の申請が大変

立ち上げの助成金はたくさんあるが、継続の助成金が少ない。短年で終わる団体が多いのは、そのせいもあるかと。年間10万円くらいあれば安定して続けていけるので、継続を支援する助成金を増やして頂きたいです。

立ち上げ時には募金など個人で協力していただける方がいらっしゃったが、継続的な支援が見込めないのが漠然とした不安がある。

食材費を抑え、調理方法を工夫している。

野菜は地域の方から頂くので助かっています。

様々な助成金があるため、助成金を活用しています。

ボランティアメンバーが仕事をして得たお金を出しています。

任意団体ということで、公的な支援を受けることに対してハードルが高いと感じている

ありがたいことに食材の寄付などはいただけることが多いですが、資金としては助成金や補助金の倍率が高くなかなか得られないため、申請して未採択、申請して未採択が続いて手間だけかかってしまうことが多く、有意義に子どもたちへ時間を使えていない。

フードバンクからの食材の寄付など活用させて頂いております。

7年継続している中でいろんな寄付や補助金等積み残っている。
大きな買い物はできないが食材やちょっとした備品程度なら購入可能。

物価高に加え、コロナ前より参加者が増えたので、厳しいです。

使用出来る項目が決まっていること。

食材の寄付を活用しています。

県・市役所・ライオンズ・ロータリークラブの情報をゲット。
寄付を募ります

私どもの団体は、原資となる活動資金が少ないため、助成金に頼らざるを得ない状況の中、精算式の助成金の場合は運営が厳しいので、できるだけ先に助成金を頂けることを重視しています。

子ども食堂ネットワークからの助成金案内などを活用

民間の助成金を有効に活用している

無理しない

持続させていくためには参加費を取る必要があると考えるが、それ以上に誰もが来れるようにしておきたいので葛藤がある

今年度始めたばかりで手探りだが、助成金の情報は必ず確認するようにしている。
これから支援して下さる企業さんも探していきたいと考えている。
助成金頼みになると運営経費に関する管理が煩雑となり、先々の見通しも立ちにくいことから不安に感じる。

助成金に応募する。書類作成が難しいこともある。

1年ごとの申請ですので、来年度もらえるかどうかわからないため、綱渡り状態である。

クラウドファンディングの実施、賛助会員の募集強化を行っている。

主食や弁当パックが安く仕入れられると助かります。安い食材でなるべく賄えるように工夫しています。

参加スタッフ（おとな）からも1食300円いただいている。

ありとあらゆる補助金を申請

継続のための助成金が少ない

現在は行政からの補助金があるので、献立やイベントなど色々なことが出来るが、なくなった後のことを考えなければならない。

物価が高騰しているため、少しでも安く食材などを購入するよう努力している。
それでも足りないところを補助金や助成金を充てるよう工夫している。

活動のなかで、ご寄付や物品での寄付をいただいた方に子ども食堂の参加者の人数や感想などをお話しし、継続してご興味を持っていただけるようにと思っています。
会食もパントリーも長期休みのお弁当配布も始めましたのでこれからの運営資金が不安です

いつもギリギリの自転車操業

町内のイベント協力、出店等

工夫は、出来るだけ安く出来るようにある物でメニューを考えたりする。
先にも書きましたが、申請、報告が難しく、またパソコンも使えないので助成金を申請しにくい。

イベントなどに積極的に参加して、資金を確保する努力が必要。

子ども食堂と並行して安価な惣菜やたこ焼きを販売し運営資金に充てようと考えている。

補助金や助成金は、対象や金額が様々ですが、私たちの現状や活動に合ったものに応募するようにしています。

また、子ども食堂の開催場所は公民館ですが、減免申請を提出することで会場費を削減し、また地域の方々とのつながりを大切にすることで、最近では野菜やお菓子を寄付してくださる方もおり、材料費を安く抑えられています。

課題に感じることは、活動資金が安定して確保できているわけではなく、助成金頼りになってしまっているため、今後は、安定的な資金源を確保する必要があると感じています。

行政の補助金は申請額に対して満額頂けないことがあります。また民間の助成金は申請しても落選することもありますので活動資金の不足から子ども食堂を運営していく上で不安定さは感じております。

備品、広報媒体作成などは助成金等に頼ってしまっている
子ども食堂として事業に注力できないため、継続のための運営費確保が難しい

活動や規模に見合った助成金が少ない。

委託金では食費を支出することができないため、助成金に頼るしかない。
助成金では毎年安定した収入が得られず、金額も確定しないため、資金調達に苦労している。

年間開催回数を増やしたいが、助成金頼みでは限界。
企業の寄付など別の手立てを考える必要がある。

配布範囲と配布人数が多いため（市内全域対象から希望者）、助成金などの獲得が必須になる。ファンレイジングも用いて運営している。

ネットワーク・市の会議での紹介・市の助成等の募集を常に気にかけて申請をするようにしている

民間助成金申請による財源確保のハードルが高い

寄付の食材などの案内があれば応募している

役所の補助金をもっと増額して欲しい。

行政の補助金は概算払いが多いので、立て替えが大きい

地域の老人会の会費を使っているが、会においては ふれあいサロン（茶話会）と月1回の定例会、役員会の飲食費に使っている。

県の補助金（民間助成金）をなるべく申請するようにしている

一部の方からのお心に助かっています。お金であったりモノであったりで私たちが「元気」を繋いでいます。

フードバンクより戴いている

民生委員会、社協からの出金のみのため R5は7月そうめん流し、12月カレーを実施
3月にも開催予定

パソコン等が苦手なので、手書きのできるものしか資金として申請できない。

少しでもできるように工夫しているがダメである。

あらゆる人脈を使って、想いに賛同していただける会社、個人に対して、資金の寄付をお願いする。

サポート方法をワントタイム、マンスリーと工夫している。

助成金をいただける団体をさがすこと

助成金の範囲内でできるようにし、活動応援箱をこども食堂開催時に設置している

企業に対しては報告を大事にしています

こども食堂の助成金を申請し、活用させていただいている。

支援いただく野菜など食材を利用してメニューを考える。しかし、子どもたちの好物はなかなか用意出来ていない。

一昨年の開設以来、公的補助金類に恵まれ、これに頼った運営をしているが、今後は個人の方の寄付等により、自主財源を増やす努力が重要と考えている。

市の助成金は大変有難く思っております。助成金申請も我々の中で管理に無理のないように心がけています。

資金ではないですが、家庭菜園で余った食材をわずかですが、いただける方を探しながら進めています

実費になることが多い。2024年度4月から自治体より助成金がいただけるので問題はなくなる

コロナ禍に活動し始めたので、食器類がほぼ使い捨てになっている為、ここの資金がこれから減らしていけるのではないかと。

またお米やお野菜など地域の方々にご協力頂き、余っている物を分けて頂いたりしている。今後は食品ロスももう少し踏み込み、いい繋がりが出来たらと考える。

地域の互助共助として、地域の皆さまに1枚200円で食券を購入して頂き、子供達はそれを使って無料で食事を取ることができる。

行政の助成金を申請しているが、一年先の活動後にしか支給されず、しかも、提出書類をまとめる作業に苦勞する

寄付を呼び掛けても資金が集まらず、どうすれば良いのかまったく分からず途方に促されています。

募金箱を置く。足りなければ貯金を崩す。

子ども食堂の実施場所に募金箱を常設

寄付していただく野菜などを活用する。お米の寄付は充分

資金、ボランティアスタッフ、地域の理解

色々な企業などの助成金の情報収集が難しい

提供してくれる人事業所をさがす

学期ごとに募集している。

2年続けて行政の補助金で運営ができたが、補助金が今後も見込めるかが心配です。

頂けて大変有難いのですが、助成金がおりにるのが遅いため、開催を始める時期が遅くなるので困っております。

献立は事前に決めているが、出来るだけ頂いた旬の野菜を使うようにしている。定期的に助成金の申請をするが、事務処理が大変と感じる。

地域や周りの人の理解による更なる資金援助が必要と思っています。

フードバンクやおてらおやつクラブによる食品提供で助けられています。

補助金に頼っている

現在は国や市の助成金をいただいております、不安に感じることはありません。おかげで事業を拡充することができました。が、今後、こうした支援が続いていくのかは不透明ですので、その点について不安があります。

現在、運営会社の寄付金でほぼ賄っているので、行政の補助金を期待します

子ども食堂開設助成金を申請し、活用させていただいている。

個人の持ち出し

R5年度 自治体の協働のまちづくり活動提案事業にR5.4月～R6.3月までは補助金をもらえます(遠方からのボランティア車の駐車場代は出ない)が、R6.4月からは1ヶ月6,000円しかもらえなくなるため、募金箱を設置し、一般の方の寄付で賄っていかないといけなくなる。

大変ですが、来年度はなんとかこれで運営できそうです。

定期的に地域自治連合会でのチラシ配布で食材寄付呼びかけ

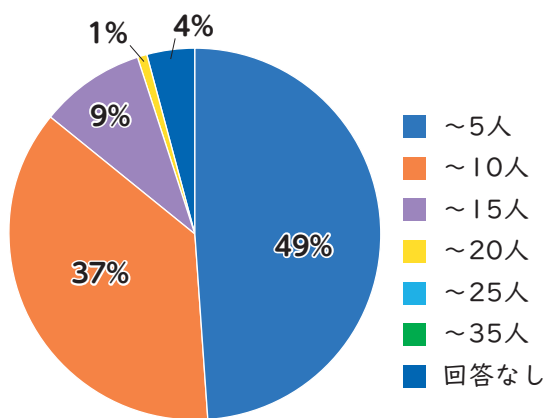
フードバンク奈良に登録、奈良県社協 ※米等食材としている

設問14 こども食堂の活動に携わる運営スタッフ（ボランティア）について

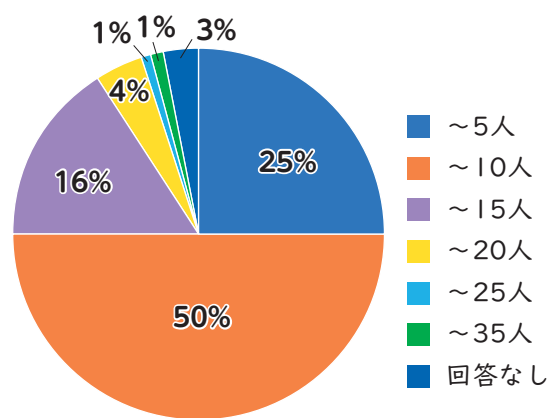
14-1 ① 中心になる（グループの運営や活動の企画に携わる）スタッフの人数

② 活動日当日の平均のスタッフの人数をお答えください

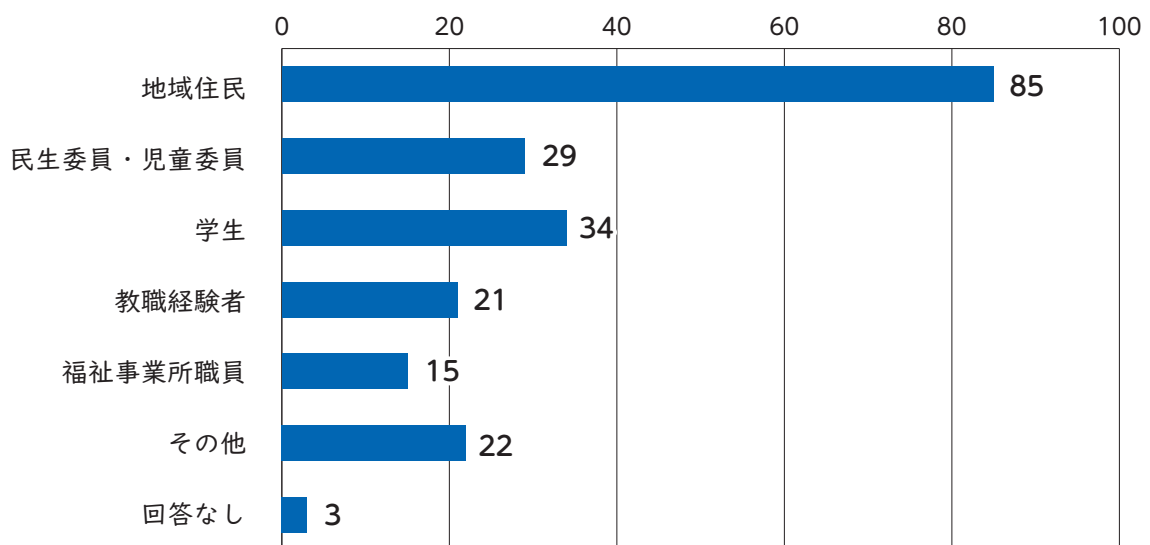
① 中心になるスタッフ



② 活動日当日のスタッフ



設問14-2 運営スタッフには、どんな人がいますか。[複数回答]



設問14-3 運営スタッフの費用弁償等がありますか。



設問14-3 で「あり」とご回答の場合、具体的にお答えください。

2,000円

ボランティア交通費：1,000円、ワークショップ講師謝金：10,000円
ワークショップ講師交通費：2,000円

補助金の出ている間、交通費として千円支給している

交通費500円

食材等引取時のガソリン代のみ

謝礼金1ヶ月 1,000円

1回1,000円

交通費実費支払い 半年に一回ボランティア謝金配布 3,000円

謝礼1回1,000円～3,000円（タブレットや陶芸指導の講師等）

町外への交通費のみ、普段は無料でご協力いただいています。

学生に交通費実費支払い

交通費実費支払い

賄いやお弁当がある時はその場で食べてもらったり、持って帰って頂いたりしています。

1回あたりの謝金 700円ほど、学期毎に変動あり

旅費実費、ガソリン代一回500円、会場費一回500円。

通常無、助成金が獲得できたときに稀につけることがある。

旅費

謝礼1回 3,000円

交通費実費支払い

謝礼1回 1,000円

報酬3,000円×4人/回、相談員謝礼 5,000円×1人/回

食材、調理器具など

交通費1回300円

支給品を運搬など遠方へと頻回に行ってくださいの方のみ交通費支払い月500円

謝礼8,000円

交通費

1人につき1,000円～1,500円

謝礼1回500円と交通費1回500円

1,500円

通常出勤日として賃金、交通費が発生

時給と交通費支払

駐車場代、ガソリン代、

1回 500円

設問14-6 運営スタッフの確保や育成について、工夫しておられること、課題に感じられることがあれば、ご自由にお書きください。

毎回違う組み合わせになるので連携が難しいです。

募集していることをお知らせするのが大変

社会課題に関心のある学生さんに来て頂くと、成長が著しいと感じます。子供たちとも年齢が近いので上手に遊んでくれて助かります。学生さんはいずれ卒業されるので、学校に定期的な依頼が必要です。

共通理解しておきたい事項は、厨房（全員に目につく為）に掲示しておく。スタッフも楽しく参加できるように、それぞれの役割を伝える。

楽しく参加してもらうように心がけている。

頂いた野菜を利用・配布する前に、スタッフに選んで持ち帰ってもらっています。

運営スタッフの大半は、飲食関係、福祉関係、教員等、専門性を有する方で、スキル面では特段不足を感じることはありません。参加者の子どもや保護者の情報シェア等は密に行うように心がけています。

若い方に時々お手伝いをお願いしています。将来ボランティアメンバーになってもらえたらと心の中で思っています。

女性スタッフが比較的若いので、出産や育児などにより人出が安定しない

必ず子ども食堂の当日は開始前に簡単なミーティングをしてスタッフが本子ども食堂開催の目的や作業内容を全体で共通認識、把握した上で作業にあたるよう工夫している

子ども食堂開催の後には必ずミーティングを行っています。子ども達の様子や保護者さんの育児の悩み、また保護者さん同士の交流もできていると思います。

7年続けてきてメンバーはほぼ数人を残し入れ替わっています。その時のメンバーでできるだけ分担や相談をしてすすめていく。

それぞれの思いを持って活動に参加してくださっているので、育成はしていません。

自分の興味外のことに関しては消極的

スタッフが、同じ日に病欠

協力してくださる各種団体の中で、子ども食堂の必要性の理解をお願いしています。

運営スタッフは、ボランティア活動として参画いただいているので、食堂開催の主旨を丁寧に伝えて、賛同して頂ける方に協力いただいている

専門的な知識を持ったボランティアスタッフが少なく、人数の割には効率的に動けていない。

無理しない、させない

現スタッフの高齢化

最初から高いスキルを求めるのは重荷となるため、毎回開催前後のミーティングを大事にしながら負担感が出ないようにしている。特に事務局的な機能は代表の属する事業所で統括している

子ども理解に努めてくれる人が集まっている。食育だけではなく、生活、教育について常に情報交換をし、研修の場を設けている。(内容について検討会を開く等)

スタッフの意見ややりたいと思うことを、できる限りとりいれています。

ボランティアは全員登録制であり、現在180人が登録している。年数回の研修会を定期的で開催している。

衛生意識の保持

来れる時に来れる人でいい。重荷にならず、スタッフも楽しくできるようにと考えている。

地区の民生さんか社協さんなので、問題ないです

スタッフの高齢化が課題

学生（高校生以上）に参加してほしいが、卒業生も来てくれない。

栄養士の方から、調理メニューのアドバイスや子供の健康に役立つ情報を頂いている。

行政や学校との守秘義務の中での課題を把握しているのでスタッフにはいえる範囲だけ会食時にだけのご協力の方には言えませんが民生委員さんなので事情をご存じの範囲もありますので他からのお手伝いなどは今のところお断りをしています。

運営スタッフが少ないこと

現在13名のスタッフは、年齢的に1名を除いて全て60代です。5年以内に次に繋げる人達が関わってくれたらと思っています。

そのためにも町のイベントにも参加して周知しています。

奈良県内の大学にチラシやポスターを4月に配布予定。

スタッフの高齢化が進み、若者の参加、育成が課題。

マンパワー不足

スタッフ間のコミュニケーションや他学年との交流を目的として、月一回スタッフのみが集まる日を設けています。課題としては、活動に対する個々のやる気やモチベーションが異なるため、スタッフの参加度が偏ってしまったり、意見交換をする人が限られたりしています。

大学生ボランティアは4年生になると卒業論文や就職活動で来れなくなる方もいます。現在、学生ボランティア団体から数団体来て頂いておりますので、団体内で新しく入られた方に1度こども食堂の雰囲気を体験して頂き、気に入って頂ければまた来て貰えるよう心掛けています。

特にありません。当団体利用者（及びそのご家族）に限り、お申し出があれば面談の上、ご協力いただいています。

新規メンバーの獲得が難しい。

活動時間が朝早いため、来ていただけるスタッフを探すのに苦労している。

若い方に入っていただきたいので、今後はSNSを利用しようと考えている。

コロナ禍前と大きく違い、大学生高校生などのスタッフ確保などが難しくなったが、運営メンバーと周辺のボランティア、小学生スタッフをメインにおこなっている。

その日の活動に応じて人数調整をしている

こども食堂に理解のある方を採用しているので、特に問題はない

SNSを使っでの呼びかけ

考え方の多様化と意思統一とのバランスをとらなければ、いけない。

婦人会メンバーは高齢者のかたが半数以上なので、その中で若手の方々に協力してもらっています

今は延命会の会員がスタッフとして運営できていますが、工夫として子ども会の保護者と児童も参加しているので、将来は保護者にもスタッフになってもらうように声かけをしてゆく。

業務の中での運営のため、本業が忙しい時期ですとスタッフへの負担増になるときがある

今までは主の者が献立、お金、物、協力者、ボランティアさんの全ての面をみてきましたが、ある程度定着してきたので変化をつけたいと努力しています。

少しでも皆に役割を分けていきつつあり、当日の役割が面白いと楽しくやりがいを感じてもらっています。

民生と地区社協の連携がされているため、社協の児童部門のメンバーもお手伝いしてもらっている。運営スタッフについては、あまり問題がない。

活動資金に関しては、開催が少ないため助成金も戴けない。

民生、社協、フードバンクさんからの援助で活動中。

何かいい案がないか、模索中です。

皆で共通理解してほしいため、こども食堂としてLINEをつくって連絡している

とにかく現場が楽しい と思ってもらえるように努め、その上で人様のお役に立っていることを感じてもらうよう促している。

毎回、メニューの内容の相談や活動日の調整をしている

気心知れたメンバーで運営していきたいので増やす予定はないが、ロコミ等で利用する方が増え食数が多くなってきて、出来る範囲でやろうとすると制限をしないといけなくなり、どうしたらよいか悩み中です。

他の食堂さんでスタッフの共通理解でもめてしまう時があると聞いたことがあるので、増やすのもどうか悩み中です。

詳細のマニュアルを作成している。

月一回、運営スタッフで話し合いを行っている。現在は管理栄養士が主なスタッフだが、今後看護師や介護職のスタッフの方にも運営スタッフとして参加していただく予定。
こども広場に対する共通の認識を持って運営に携わってもらえるよう、現在改めて理念を振り返り共有している。

運営中心スタッフ以外の方々には、負担にならないよう、理由問わず休みたい時には休むよう伝えている。

従来地域活動は、65歳以上の方に頼りがちであったが、子ども食堂は学生や子育て世代の方の協力が重要と考える。若い方の参画が、子ども食堂の今後の進展に有効である。近隣の大学へのボランティア募集や、小学校の保護者等への呼びかけ等に力を入れている。

同じメンバーで主に活動しているので、長期的に考えれば少し不安がある

切り詰めた運営面で考えると現状（自治会隣組と地域の知人）で回せているが、高齢化もあり、民生委員つながりで希望者もおられるので、常に候補者は持っておきたい

毎月第3日曜日にしか実施しないと言うことで、日程指定をしていること

アレルギーにも力をいれている途中なので、アレルギー指導員との密な相談を強化している。

スタッフ間も心地よい居場所となるようにして、長期にわたるお手伝いをお願いしている。課題は、お母さんスタッフが多いので、インフルエンザなどの病気が流行った時に急遽開催出来なくなる可能性もあるので、考えていかなければならない。

行政や他団体との協働

それぞれ職についているため、活動に制限があり、役員で共通理解してもらう為にたまに集まり会議も行うが、SNSを利用し連絡している。

発達障がいを持っておられそうなコミュニケーションが苦手な方が多くて大変です

気が合う人に声を掛けている。

見学に来られる方、イベント時に会話して興味をもたれている方をお誘いする

ボランティアとして、無償だとなかなか難しい。

若い人材がほしいと思います。

スタッフは調理師・介護士・看護師もいます

高齢化と少子化

現状は、スタッフの確保に問題はないが、スタッフの高齢化が課題と感じられます。

参加者の保護者の方から輪を広げてもらえたり、子どもや保護者間のクチコミでスタッフさんが集まっていることがとても有難いことです。
参加するスタッフみんなで意見を出し合い、開催毎により良いものにして行ける様に意見交換をしています。

若い方に入っていただきたいが高齢者が多くなる

ボランティアセンターなどへの広告や声掛けによってスタッフの確保をしています

ボランティアさんを集めることが困難

今は民生委員中心なので足並みが揃っていると感じている。

家族が運営スタッフの中心になり実施しています。
ボランティアの方に来ていただくと助かるので、SNSで募集の告知をしています。あとは口コミや紹介でお願いしています。

月1回運営スタッフで話し合いを行っている。
現在は管理栄養士が主なスタッフだが、今後看護師や介護職のスタッフの方にも運営スタッフとして参加していただく予定。
こども広場に対する共通の認識をもって運営に携わってもらえるよう現在理念を改めて考え直して共有している。

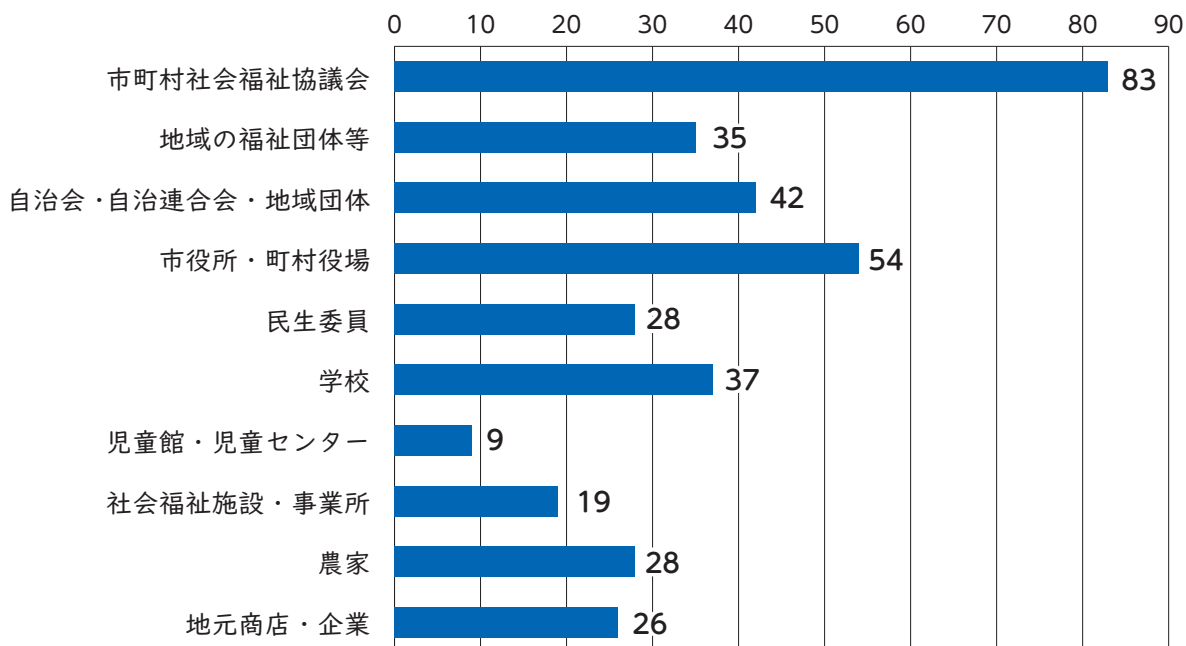
口コミで広がっています

ボランティアさんに発言したら、来られないと思いますので、伝える意味は？
肩を並べる社会人として接しています。

細く長く続けてもらえるよう、無理をしないよう声がけしています。
また、役割分担はこちらが決めるのではなく、はじめに人数を言っておいて自主的にやりたい仕事を自分で選んでもらっている

設問15 こども食堂を運営する上での地域との連携について

15-1 こども食堂として、どんな機関や団体と関わっていますか。[複数回答]



15-2 地域との連携で工夫しておられること、課題と感じておられることがあれば、ご自由にお書きください。

子どもが施設外で遊ぶことがあり、近所から苦情が来ること。

ボランティア協議会と連携していますが、協議会の会議参加などが大変

活動を応援してもらえるように、自治会の役員さんへの挨拶や、地域のイベントになるべく参加して団体を知ってもらえるように心がけています。1周年イベントに積極的にお誘いして、役員さんほぼ全員に来て頂けました。団体の様子を知ってもらえたことは今後大きくプラスになると感じています。

どこと連携すればいいか、誰に相談すればよいかよくわからない。

チラシを貼り出すことで周知してもらおう。

公民館周辺の家庭には活動していることを知ってもらうために、来場しない方であってもポスティングしています。

学校との連携がまだ未構築のため、今後進めていきたいと思っています。

季節行事などは必ず地域の各種団体に相談してご協力をお願いし、地域全体で取り組める様努力しています。

食支援を通じて協力し合える関係にある個人・団体とのコミュニケーションは意識的に行っています。

どなたも知り合い同士の繋がりでお力をお貸しくださるので感謝しています。

奈良の郷土料理を次世代に伝える。

ポスターなどをみて開催時に野菜や食べ物を届けてくださったり、寄付をしてくださることもあります。支えられている人たちにも支援していただいていることを伝えていくようにしています。

連携と言えらる状態ではありませんが、今年度になりやっと会食の会場に役場や社協の方が見に来られました。

会場の隅で眺めているだけ、あるいは決まった家族にだけ声かけされていますが見ているだけでは、参加者がなぜ参加しているのか？ スタッフは何に苦勞しているのか？ など分からないと思います。

何しに来ておられるの？と忙しく動き回っているボランティアの反感が出ているので、なんとかせねば…とっております。

ロコミで広がっている感じなので、地域の方とつながっていきたくて考えているのですが、地域の集まりは平日の日中がメインになっているので、会社員の私は参加が難しい。

食材にこだわりがあり…
何でも頂くのが難しい

協力して下さる各種団体さんが地域の中心的な団体さんとの関係性が密の為、様々な情報を共有できています。

自治会地区によって対応が違うので、関わる地区への対応が難しい

地域の区長会会長が実行委員長になり、地域住民や地域の各種団体からのボランティアスタッフの参加を呼び掛けてもらっている。

無理しない、させない

広報することで多くの人に関心を持っていただければと時々地域の回覧に加えてもらっている

敷居の低い団体や自団体の活動に興味を持たれている団体を優先し、少しずつそれ以外の場所にも広報や巻き込みができるようにしている。相手の前のめり具合をみてお声掛けするタイミングや順番は大事だと感じている。

地域にどのような団体や人材がいるのか把握しきれていない。

市社協さんや包括さんなど情報を集約されている団体との連携が必要だと感じている。

地域交流には常に参加して、情報交換をすることが大事だと感じる。

もともと地域の地縁団体なので、関わりには苦労はないが、地域が高齢化甚だしいため、地域という概念がいつまで持続できるか、不安を感じる。

連携規模の画策

実施日が周知されていないことがある

高齢者の方にももっと参加してもらえるように、サロン参加者等に声かけをお願いしている。

学校とも連携したい

おてらおやつクラブとの連携、地元企業・個人との連携、

地域の農家さんや趣味の家庭菜園の方からの寄付をロコミで募っている。

小学校やこども園を通じて、地域の子育て家庭へのアナウンスやチラシを配布して頂いている。

地域との連携は大切だと思っています。話していただけるように団体へ訪問しご協力に感謝して次に考えていることなどを話しています。

連携するための人員不足

町や社協、企業のイベントにも協力参加して自分たちの活動を周知している。

もっと行政や社協等からの情報の発信や告知（宣伝）等をしてもらえるように働きかけた

常に積極的に情報を提供することを心がけている。

運営団体が、自治会をはじめ地域のいろいろな団体で構成されているのと、日頃から保小中と連携しているので子どもへの呼びかけや情報交換がやりやすい。

学校と連携したいが、直接学校に行くのも敷居が高い。
窓口になる所があればありがたい。

工夫していることはその地域が主催するお祭りに参加させていただいたり、積極的にその地域の施設や個人の方々とコミュニケーションをとるようにしています。

課題としては団体全体をまとめながら、地域など外部の方々との関わりが多くなると、運営の中心側では対応しきれないことが少し出てきたことです。

こども食堂のイベントとしてハロウィンパーティーを開催したのですが、メインの催し物としてマジックショーを開催しようという事になりました。その際に市の社会福祉協議会の方に相談したところ良い方を紹介して頂き大変助かりました。

- ・栄養摂取より「地域のみんなとの食事」体験を主目的としている
- ・地産の森林資源（薪や食材）を活用
- ・広い世代向けのメニューの必要性

地区社協、自治会、学校や園とのつながりを大切にしている。

毎月開催される地域の会議で、実施状況等を報告している。

小学校・幼稚園を通じて参加チラシを配布している。

公的機関との連携。

地域住民との交流が普段はない（子育て世代以外）

こども食堂の案内を各幼稚園、小学校へ配布しているが参加人数が少ない

地区社協との協働事業として運営をしている

まだまだ地域の理解と認知が足りない。

地区が大きなベッドタウンの中にあるので、参加者が多く予約制にしています。
作れる食材も限りがあるので大変です。

地域（自治会、子ども会）には、まだまだ浸透していないので、もっともっと深めてゆきたい

小地域ですが作物を作られている方とは密にしています。
2023年にはスイカ、ハランキョウ、柿、白菜、大根、じゃがいも、サツマイモ、レタスのほか農家よりお米、社協より餅米、調味料など

開催を各自治会で回覧案内していただくのが、とても困難です。
学校には2つの地区の子どもたちが通っていて、学校からの呼びかけは難しい。

住宅街では人が集まること自体を好まない様子で、理解してもらうには時間がかかる

地域には子どもが少ないので、高齢者の方にも居場所として楽しんでいただける場所づくりをしている

地域との連携も含め、SNSでの情報発信を駆使して周知している。
公式LINEアカウント（有料）を契約している（現在、460軒登録）

スタッフ、ボランティアの呼びかけ、広報

同じ市内の子ども食堂と会議を行い連携している。

社協、保健センター、役場との連携。
なかなか貧困層や、困っている家庭と出会えないのが課題。

地域の民生委員の方が、乳幼児教室や地域のイベントなどでこども広場について発信してくださっている。

いろいろとご支援の情報メールをいただくが、最近は抽選ではずれることが増えた。

活動の実態を知って頂く事が最も有効と考える。当食堂では、年1回、「活動報告書」を作成し、運営資金の詳細も含め開催状況を公開している。

地域の住民の方々（特にこれ迄地域活動に参加する機会の無かった個人）が、スタッフとして気軽に参加して頂ける様、ハードルを下げる工夫をしていきたい。

他のこども食堂と意見交換して行政も巻き込んでいます

課題というか使命は来場者の悩みや相談を行政につなぐ橋渡し→「相談」というキーワードを前面に出しにくいので親御さんの来場をどう増やすか という点です

回覧板で開催を予告している。

広く知ってもらうためにはどうしたらいいかが課題です

異業種交流会、商工会議所に参加して活動紹介、協力要請している

子供食堂ではあるが、地域の方に利用を促し、だれでも利用出来るようにしている

もめると噂が広がりそうで怖い

対象となられる子どもさんが学童に行っておられ、時間的な所が課題です

お互いの良い点を共有し協力して子どもたちの為に何が出来るかを相談して、こども食堂が少しでも関わっていければ有難い

反対住民との関係が難しい。

就労支援事業所とタイアップしています。

本当に来て欲しい家庭の子供や親に来てもらえない

小学校が廃校になる予定だが、それまでは継続したい。

スタッフの知人の農家さんからお米の提供等を受けています。

- ・世代間交流がしっかりとあることです。これは地域の防災についても意識しており、子どもから高齢者みんなで支え合える場の提供にもなっています。
- ・次世代の方により良い形で引き継ぐためにはどうしたら良いか模索中なので、ほかの団体の方がどうしているか、参考にさせて貰えたら有難いです。

およそ3年になり、活動が定着してきたように思う。
地域のみなさんからも野菜の提供を受けることが多くなった。
初めての方にはどんな弁当を作っているのか知っていただくために弁当を届け、活動を理解してもらうようにしている。

自治会長や、周りの同じような活動をしている方たちとの交流を意識しつつ、地域への活動の理解が課題です。

一般の方に参加して頂けるように敷居を高く感じないようにする工夫が必要

地区にこどもが多すぎて、どのように案内すれば良いか模索中

地元の小学校から先生が視察に来られるといった話を他所の子ども食堂から聞くことが多
いですが、私どもの所には開催から7年経った今も一度もありません。

地域の民生委員の方が乳幼児教室や地域のイベントなどで、こども食堂について発信して
くださっている。

市の行政や民生委員さんへのよびかけ等は反応ないので、すでにあきらめています

子ども食堂に来た子どもたち、お母さん方、お年寄りに声かけし、広い方々に様子を聞く
ようにしています。

地域によって地区社協さん等との連携の差を感じる

子育て支援、学童支援、地域世代間交流を実施しています。
工夫と言うより、その都度話し合っって想いを共有しています。
地域の輪ほっと一息！子ども、地域とのつながり、笑顔に出会いがうれしくて活動させて
もらっています、

地域活性化のため活動してきたが、自治会などの協力が得られずこの2月で閉鎖します。

こども食堂は小学生以上を対象（兄弟は未就学児も可）としているので、地元の保育所の
子どもたちには保育所前で定期的にパントリーを開催している

民生委員さんなどに地域で一人暮らしの高齢者の声がけに協力してもらったり、協力して
くださる農家さんとの普段からのコミュニケーションをとっています

2 こども食堂でのエピソードについて

設問16 活動をしている中で、心に残っているエピソードをご自由にお書きください。(身近に感じたこと、見聞きしたことなど)

ボランティアで参加した大学生が参加者にインタビューを行い、卒業論文にまとめてくれたこと。

場面緘黙の子が絵を描く事が好きで、喜んできてくれた事

父娘で来てくれているパパさんに「ここで子どもと遊んでお弁当持って帰ってママと食ったら、ママは午前中自由時間でお昼ご飯も作らなくて良いので助かるんです」と言ってもらえたこと。ここに来てもらえなくても助かっている方がいるということを楽ししく思いました。

参加して下さった方が「楽しかった！また来たい！」と親子で喜んでもらったのが励みになっている。リピーターの方がさらに新規の方を誘って参加して下さり、輪が広がっているのを実感している。

お弁当を食べたこどもから美味しかったと手紙を頂いたり、お母さん自身が体調不良の時に利用されて助かったとお礼を言われたりした。

幼稚園か小学生低学年の子どもから御礼の手紙を頂くことが時々あります。

毎月かかさず参加されるご家族がいます。小さいお子さんを持つご家庭で、子育てに疲れを感じている様子が伝わってきます。

毎回お子さんも保護者さんも子ども食堂をととても楽しみにしてくださっていること、子ども食堂が保護者さんの息抜きの場となっていることをうかがい、とても励みになっています。

定例の地域食堂とは別なのですが、昨年台湾の高校のラグビー部の生徒55人（よく食べるので150人分）の朝食、夕食を1週間作って提供する機会がありました。

ボランティアメンバー以外に自治会役員、地元企業、婦人会役員さん達に協力していただき、朝早くから夜までとてつもなく大変でしたが、生徒達からはとても喜んでいただきましたし、地域全体で協力して活動する事に充実感が得られました。

当地域食堂のボランティアメンバーは普段から100人分の調理をしていて、緊急事態の際の炊き出しに間に合う様に訓練も兼ねて活動していますので、突然のお願いにも対応してくれるボランティアメンバーに感謝します。

フードパントリーを通じて出会った方（主婦）が、困窮や家庭内の問題など、緊急性の高い問題を抱えておられましたが、子ども食堂に来られるようになり、笑顔が増えました。回を重ねるごとに、上のお子さんや旦那さんと一緒に来られるようになり、私の家族と個人的な付き合いも増え、悩みなどを相談してくださる間柄になりました。初めて会った時に涙を流しておられたことを思うと、当団体の活動に触れ、居心地の良さを感じてくれるのだと思い、こちらも嬉しく思う限りです。

先月のこども食堂では、いつも落ち着きがなくじっと料理できない児童が、集中して作業をしていたので、母親が感動し、いつも粘り強く指導して下さってありがとうございますと、感謝して頂いたこと。

野菜を食べなかったお子さんが、こども食堂に来てみんなで食事をするこゝで進んで食べるようになったときには本当に嬉しくてたっぷり褒めました。
お母さんもとても嬉しそうで笑顔溢れる瞬間を作れたことが何より嬉しかったです。

小学生の時から不登校だった男の子が通信制高校に通うようになり、タイミングが合えば、スタッフとして手伝いに来てくれます。
将来について、自分の強みを生かした進路を考えて、いろいろな話をしてくれたり、運営の準備や配慮の足りないところを指摘してくれるようになって頼もしく感じています。

登校拒否のこどもさんをシングルで抱えている人が、月に1回だけ話をきいてもらえる
と元氣になれるとおっしゃっていただいたこと。
お弁当を申し込んだママが、こどもの弁当しか申し込まないので、ママのお弁当はいらないのかな？と尋ねるといつもこどもたちで食べているからというのでこのような機会に是非お弁当だどつくらなくていいし、片付けしなくていいのでゆっくり親子で食べてほしい
というそんなことを考えたことがなかった。なるほどそうですね。とわかってくださったこと。
食を通じての大切さを共有できたことがうれしかったです。

こども食堂に参加のこどもの精神的な成長を身近で感じるができること

こども食堂に関わった大学生たちが、食堂に関わったことで子どもに関連する仕事に就いたと言ってくれたこと。

たくさんありすぎて、書けないのですが
不登校の中学生がこども食堂にきてから、スタッフとのふれあいから生きる希望を見だし、中学校に登校するようになり、高校進学してくれたこと。
不登校の中学生が家庭内不和により、行き場をなくしていたので、半年間一緒に生活し、学校と家に復帰できたこと。
スタッフとして関わってくれた方が、自分の居場所になってくれ、自分に自信がついて今は仕事復帰してくれたこと。

引きこもりの学生さん2人が餅つきをして生き生きしていた事

様々なご家庭の情報に基づき、協力団体の皆さんが色々なアプローチをしてくださり、こども食堂へと繋げてくださいます。

当自治会地区では初めての食堂活動なので、開催に当たり喜んで下さる声を戴いた

祖父と参加していた子供が、祖父がボランティアスタッフとして参加してくれるようになった時には、子供も手伝いをしてくれるようになった。

地域を離れた親子さんがいまだに連絡をくれたりすること。高校の合格の連絡をくれたこと。

子ども食堂や子どもさんに関わる活動をしていると、自然と子どもたちが手伝いにきてくれるようになり、その子たちが、今では学習支援のスタッフとしてバリバリ事業をまわしてくれています。

保護者から「学校以外で子ども達が交流できる場」として評価していただいたこと

- ・一昨年奥さんが自宅で急死され独居となられた方が自宅を整理され始めた際に、食堂のリユースの活動を知りコップやお皿を提供していただいた。その方が食堂を開催する毎に必ず参加され、地域の子どもたちや大人たちと関係を持ち始めている。また今月実施したお餅つき大会ではその方と同時期に奥さんを亡くされた方と意気投合してお餅を食べながら楽しそうにされていたのが印象的だった。
- ・まだ開催は5回程度だがゲストとして来ていた子どもたちや大人たちが常連となり、新たに来られる方に食堂の説明やイベントを説明し、少しずつホスト側に回っている様子が印象的。どの様な人でも役割を持つことができると認識させられる。

会食に来てくれた子どもが、美味しそうなにおいがする～と鰹節の出しの香りに反応してくれたこと。日本の出汁文化が薄れていく中、手作りの食事を提供したいと思います。

皆が楽しみにしてくれていること。

子どもたちからお礼の手紙や言葉をもらったこと

コロナ禍で2年9か月お休みしていたが、再開後もコロナ前と同じようにスタッフが集まってくれて、段取りも滞りなくテキパキできたこと、また、参加者みんなが楽しく開催できたこと。新しいスタッフも増えた。

- ・学校のお手紙を書く学習などの際に、子ども食堂宛てにみんな書いてくれる♡
- ・インスタのDMでおかあさんからの連絡があり、母が長年の精神疾患で子どもの居場所をありがとうございますとのこと。

地元の高齢者が臨時特例金をそのまま寄付してくださったこと

「子ども食堂に来るようになって嫌いなものが食べられるようになった」と子どもが言ってくれたことや、独居の高齢者の方が「大勢の子ども達と一緒に食事や遊べたことが、至福の時間でした」と言われたことなど。

特にコロナ禍当時、全ての家庭が先の見えない不安を感じておられたが、こども食堂の活動を通じて、元気や希望を感じてくださった家庭が多く、感謝のメッセージをあちこちから頂いた。また、農家の方やボランティアの方、高校生との繋がりが広がり、多くの方の真心が集まって活動出来ていることが心に残る。

気になる子どもが来てくれて一緒に食事をしたり調理などについて教えたり手伝ってくれるくらい大きくなって社会人になったことがほっとしました。少しでも子ども時代の良い思い出になってくれるかなと思います。

カレーの日フードリボンあって助かるー！という母の声

親子が仲良く食事している姿、普段は好き嫌が多くあまり食べないのに、こども食堂では沢山食べてくれて「おいしい」の言葉を聞いた瞬間にスタッフはしあわせを感じます。高齢者で普段は個食の人が賑やかにこども達と一緒に食べられたり笑い声が聞けることに嬉しそうにしている姿 ほぼえましくも感じます。

中学生の生徒が数名で楽しそうに食事したり雑談したり長い時間を過ごしてくれています。

毎月子どもたちが楽しみにしてくれているというのはよく聞かせてもらっていましたが、最近保護者の方も楽しみにして下さっていると聞かせてもらいました。

こども食堂は子どもを中心に…が基本スタイルではありますが、地域の方皆さんの居場所になればと思って活動させてもらっているのも、とても嬉しく、また励みになりました。これからもっといろんな方に利用してもらえたらと思います。

コロナ前からの子どもたちが、中学生になってもまた会食に参加してくれていること。

苦手な野菜も、チャレンジして食べてくれたこと。

しんどい家庭の子どもが必ず参加してくれている事、スタッフに喜びのメッセージを送ってくれる子がいたりする。

いつもは人通りもなくひっそりした地域だが、子どもたちの声が賑やかで、大変喜んでくれた。

- ・少し野菜の苦手な子が、食堂のメニューに入っていたものを食べてくれて、子供の成長を感じ、嬉しかったこと。
- ・小さなお子さんのいらっしゃるお母さんが、食堂で大学生スタッフに子育ての相談などをしていたと聞いたこと。

昨年クリスマスパーティーを開催しました。一昨年は子どもの募集人数100名に対して募集人数以上の申し込みがあり、残念ながら選外になられたご家庭もありました。昨年さらには多くの子ども達に喜んで貰おうと人数を130人に増やしました。準備するのは大変でしたがクリスマスプレゼントを大喜びで持って帰る子ども達の顔を見ていると達成感を感じることが出来ました。

2023年の夏季に、関係各所と協力の上、夏祭りイベントを開催しました。これまでにない参加者数で、多くのご好評をいただきました。

山の麓で笑い声がこだまし、子どもたちもお祭りメニューでお腹いっぱいになり、汗だくになりながら櫓を囲み盆踊りを踊る様子は最高でした。

地域に根付くあらたな恒例行事として継続していきたいです。

最初1人参加だった方たちが、一緒に参加されるようになったこと。

学校内で実施しているため、毎回校長先生が様子を見に来てくれる。学校でチラシを配り利用申し込みをしてもらっているが、朝ごはんを食べてない児童については、申し込みがなくても食べてもらうこともある。(1~2名担任の先生にも了承済)

リスクを抱えたご家族が、自立していつてくれたこと。

子ども食堂に参加するキッズスタッフの小学生が、自分のボランティアしている姿を誇らしげに親に見せる姿をみて、ボランティア精神の涵養ができてきたのかなと嬉しく思うときがある。

実体験をすることで満足感、達成感も感じている
親のつながりもできている
普段のこどもの姿を目の前で参観できうれしいとのこと

本当に困っておられるご家族の方(会食に参加ができない)には匿名でお弁当の配食を行っている

何も言わずとも子ども達が掃除をしていたり、学年関係なくみんなで遊んでいる。顔を覚えてくれていて、学校で会うと「次はいつ?」と楽しそうに聞いてくれる。

カレーの調理を変えると、違いにすぐ反応して「おいしい」と言ってくれる。

こども食堂にくると皆と食事を共にするのがおいしいのか残さず食べてくれるようで、好き嫌いがなくなったと保護者からの意見です。

保護者が0歳、1歳、3歳の子どもを連れて食事をしているとき、スタッフがあやしている風景に心温まる。
また帰るとき皆さん美味しいと言ってくれる。

子ども食堂にくると子どもたちが沢山たべてくれる
親もゆっくりできる

コロナで配布形式をとるこども食堂さんが多い中で、感染対策をしっかりし、会食スタイルをいち早く取り入れたことで参加者に喜んでいただけたこと

こどもの登下校時に「おはよう」「ただいま」の元気な声、「今度、お弁当の日に行くわなー」。に目頭が熱くなります。

子どもたちがこの日を楽しみに待ってくれるようになった。

年配者が、(家庭では油物を作らなくなったので)お弁当楽しみです。

美味しくいただけ待ちは遠しいです。

お子様が来てくださったり、おばあちゃまも来てくださったり、素麺流しの時は、とても楽しい、いい経験です と言ってくださいました。嬉しい限りです。
素麺流しはコロナ前からの恒例行事です。

私達の活動に協賛してくださり、毎回子ども向けの遊び場を提供して下さる方ができたこと 大変うれしく思いました。

夏まつりやフェスタは子どもにとって楽しいイベントである。子どもたちからポスターを作ったり呼び込みをしてくれたこと

利用しているお子さんから、感謝の気持ちを綴った手紙をいただいた。
それぞれの困りごとを気軽に相談してもらえるようになった。

夕食をつくらなくていい分、子どもと接する時間が増え、優しく接することができた。
野菜いっぱい子どもが喜んでいる。いつも楽しみにしている。

会食：いつも仕事で一緒にご飯が食べられないお父さんと今日は一緒に食べられるととても喜んでた。

毎日仕事で帰ってきてご飯を作るのが精一杯だけど、作ってくれるごはんが嬉しい。その時間、こどもとゆっくり過ごす時間になって有難い。

母子家庭：久しぶりに手作りのカレーを食べました。いつもレトルトなので。
人とおしゃべりしながら食べられることが、心がほっこりできて嬉しかった。

子ども食堂を続ける事で、参加者の成長や進路について関わる事ができている

私たちの子ども食堂だけでなく、他の子ども食堂や私たちの団体が行っている他の事業に同じ子どもが参加することが増え、子どもの様子の詳細が分かってきた時。

ボランティアがたくさん来て、子どもと楽しそうに関わっている姿を見た時。

ニコニコして来てくれるママたちでも、食後コーヒーを飲みながら喋っていると、実は子育てで疲弊していて涙を流しているんな話を聞かせてくれること。

参加してくれるこどもの中には、参加当初は嫌いな野菜だけを取り除いて残すこどももいたが、参加を重ねるごとにおかわりもするなど残さずに食べてくれている。

家ではお手伝いはしないというこどもたちでも進んでお手伝いをし、元気に「ごちそうさまでした」や「ありがとうございました」と言ってくれている。

アレルギーで提供する食事は食べれないが、こども食堂を楽しみに参加してくれるこどもがいる。

不登校だが、こども食堂には参加してくれるこどもがいる。

食堂設立時に苦慮した食堂の目指すべき方向性と云った理屈は、実際の運営経験や直面した問題と向き合うことで霧消した感がある。参加される方に信頼され、協力して頂いているスタッフも楽しんでいる存在に成り得たかは、未だ途上にあるが。

貧困だけに限らず様々な悩みを抱えている方がいるので、続ける事が大切だと思っています。

やはり、発達障害のお子さんと一緒に来られての相談（4件）→行政につながりました

一人で食事をしている方が多い。
食事のレパトリーを増やしたい

思春期真っ只中の中学生の男の子が、来てくれても笑顔も見せずでしたが、何回か来てくれているうちにお手伝いまでしてくれるようになり、帰りに「俺頑張ったやろ」とお母さんにボソッと伝えてくれたということをお聞きし、普段中々体験出来ない過程を経験することが出来ているのに嬉しく感じました。

小学校には1年生の時から不登校だった女の子も、私どものこども食堂だけは毎月楽しみに、そして自主的に参加してくださっているらしいです。

食事の仕方や残さず食べるなど、日常生活に変化があったとのお礼を保護者から頂いたり、学習支援を通じて、家でも勉強するようになったと感謝されたこと

6人目のお子さんを出産され、発育不全で児童保護施設へと連絡されたご家族がおられた。そのことで、ご家族が不快に感じた様で定期的に受ける検診を拒否されていた。子供食堂への利用を促したところ、月一回の配食ではあるが、子供食堂へ参加して下さる様になった。話を聞いたら、近くに相談出来る友達もなく、子供の学校への送迎など子育てに追われる毎日だったそう。最初は無表情であり打ち解けにくそうな態度であったが、次第に笑顔が見られて喜んでくださる様になった。

子どもにあげたぬいぐるみを大切そうに持っていてくれたこと

地域の方々が自家製のお野菜を寄付してくださりととても助かります。

多くの方々がご協力くださることに感謝です

- ・旦那様が単身赴任で二重生活をされていて、子どもたちは本当にこの日を待っている。経済的にもとても色々たすかっていると使わなくなったおもちゃなど持ってきてくださる。
- ・注文できなくても、この日はあそびにだけ来てくださる

子どもがイジメにあっているという保護者の方が、居場所として家族で楽しみに来てくれる。子ども食堂を夏休みの自由研究にしてくれた。

感謝の言葉が励みになります。

食材を提供してくれた農家さんが作物の育て方を話してくれました。その食材を調理し提供したとき嫌だった野菜を食べていたと家族が言われていました。

食事をしないで学校に行く子どもが少なくなった。

子供たちの育成で、交番に依頼し交通安全の話をして頂いたり、防災について知識を持ってもらうためにクイズや非常食の試食、熱中症防止のための経口補水液作りなど毎月のイベントとして実施しています。

- ・ AED 講習を取り入れた開催時、大人もですが、小中学生の子どもの方がより真摯に向き合い取り組んでいたのが、地域のみんで命を救うためにはどうしたら良いか考えて貰えるよい機会になったのではないかと思います。
- ・ 地域住民の世代間交流がより活発になってきていると感じています。

「今日は作らなくていいと思うと、職場へ向かう足取りも軽くなります」「久しぶりにゆっくり子どもたちと夕食を囲むことが出来ました」などInstagramに感想が寄せられたり、「カレーおいしかったよ」と子どもが絵を描いて持ってきてくれたこと。

子ども達が食堂の日に「楽しい時間はあっという間に過ぎるねー」と言って「毎日あればいいのに」と言ってくれました。

毎週行いたい思いはありますが現実的に実施するのはまだまだ厳しい状況ですが、できる限り長く続けて地域に愛される居場所作りをしていきたいと思っています。

こども食堂に参加してくれた子同士が遊び、ニコニコしている姿がほほえましく、開催してとても良かったと思いました。

高齢者の方がこどもとかるた遊びをしている中で楽しいと何度も話された

私たちがこども食堂を始めた当初から、毎回たくさんの野菜を提供してくださる方がおられます。最初、お礼に何かを持って伺ったところ、受け取っていただけませんでした。「私たちは市場には出せないけど、食べられるのにもったいないと悩んでいた野菜を使っただけで有難い」と仰いました。私たちは、形はどうであろうと新鮮な野菜をたくさんいただけて有難いし、食事に来られる方は、その新鮮な野菜を食べることができて有難いと、関わるお互いに利益を生むことが素晴らしいなと感じました。

参加してくれるこどもの中には、当初は嫌いな野菜だけを取り除いて残すこどももいたが、参加を重ねるごとにおかわりもするなど、残さずに食べてくれている。

家ではお手伝いはしないというこどもたちでも進んでお手伝いをし、元気に「ごちそうさまでした」や「ありがとうございました」と言ってくれている。

毎回、開催日を期待して来られる方が多い

- ・ 食事した後、みんなでぬり絵をしたことがあり、子どもだけではなくお母さん方もなかなかゆっくりぬり絵などする機会がないので、とても喜んでみえました。
- ・ 8月のお楽しみ会では、皆で地元のお寺の仁王様の大きなパズル絵を作り、小さな子どもからお年寄りまでみんなで大きな絵を作成しました。

子供たちが、いただきカレー（通称）を毎月楽しみにしてくれていること、お皿を洗うことを当たり前に取り組んでくれたこと。

12月にこども食堂の周年記念イベント「もちつき大会」を開催しました。総勢約170名、幸せいっぱい、お腹いっぱい！最高の笑顔が弾けていました。ほっとできる居場所と実感でき最高に素晴らしい一日でした。

参加者の方から「こんな感じ（雰囲気）やったらまた来ます」と言われてうれしかった。

ファミリーで来られた方で乳幼児を連れてこられ、隣の席のおばあさんが眠ってしまった乳幼児を抱っこしてみてください、お母さんが上の子どもさんとゆっくり昼食をとることができ、久々にリフレッシュできたと喜んでおられた。また、お孫さんが遠くに住まいされて逢えないので、託児をして下さったおばあさんも喜んでおられた。

3 こども食堂の今後の活動について

設問17 会食型のこども食堂の活動が今後も継続、発展していくために、どんな支援策が必要だと思いますか。活動者としてのご意見をお聞かせください。

こども食堂の意義を社会的にもっと広めて、周辺住民から理解を得ること。

経済的支援

やはりお金です。継続していくための助成金をもっと増やして頂きたいです。前年度の実績を見て判断できる部分も増えますし、継続が望まれる団体が続けていけるような仕組みが必要だと思います。

現在も支援を受けているが、助成金の制度はとてありがたく今後も必要だと思う。

いろんな人に活動を知ってもらうこと。実際に困っている人へ届くような情報を得られること。

会食よりも配食が好まれる傾向がコロナ禍後に顕著になっています。会食の楽しさを発信していく必要性を感じています。

一般的には、活動資金、活動場所、人員の確保が最も重要かつ困難ではないかと感じています。

役所のこども食堂担当がもっと他市町村のこども食堂担当同士の交流を持って、継続、発展に努力して欲しいです。

開放感と清潔感のある空間、安心できる人がいる空間作りが肝心だと考えます。利用者さんによって、安心できると思える人の条件には個人差があると思いますので、まずは開放感と清潔感があり、心理的安全性が高いと思ってもらえるように情報管理を行うことが大切だと思います。

地域・行政との連携はキーポイントだと感じます。本団体はフリースクールなどの他の居場所事業と並行して子ども食堂を運営しています。地域の子どもたちの居場所や子育て支援の場が十分に根付いて行くよう、資金調達は今後も課題になってくると思います。福祉や教育にあてる国や各市区町村の予算配分をより有意義に必要な場所に届くよう采配していただきたいです。

母親支援が必要だと思います、母親の悩みや相談が気軽にできる場所が身近にあることが必要だと思います。

定期的な資金援助。

市町村役場や社協と連携としていますが、開催日の連絡やご寄付者との連絡窓口…というレベルです。

要支援家庭が参加しているので、子ども食堂の場で担当者がコミュニケーションを取るために、ようやく会場に担当者が来た…というレベルです。

10年活動して、未だに定期的開催するための会場さえ確保できていないのですが、こちらの困り事には対応がなく、呆れております。

学校や教育現場とつながれる方法作りができるような支援。やはり閉鎖的だと感じる。

地域、行政の情報協力

ボランティアを確保するアイテム

地域が一つとなって子ども食堂に関わるような体系づくりが必要だとおもいます。また、子ども食堂の活動については、活動資金の確保（特に先払いのもの）と民間企業さんからの支援が必要と思います。

経験が浅く、思いつきません

地域の自治会長や民生委員さんの協力を仰いで、本当にしんどい家庭、しんどい子供に目を向ける必要がある。

役場が関わってくれたら嬉しい

それぞれに開催目的や思いは異なると思いますが、あまり縛りをかけず資金面での援助をしていただければ、継続するのではないのでしょうか。

- ・一番は運営費の確保だと思う。その中である程度の実費弁償や謝礼を渡すことができれば、一定期間は学生さん達にもご協力いただけるのではと思う。
- ・資機材や調理器具、衛生用品の提供もあれば嬉しい。
- ・子ども食堂における食品衛生基準に関しては統一した見解がほしいと思う。

資金不足で子ども食堂を閉じるという話も聞くので助成金を増やして欲しい。

私たちは、最初から調理場所がなかったので、地域の飲食店に調理はお願いしています。続けていけるか不安でしたが、作るという縛りがないので結構楽に継続できています。

継続的な支援

人、モノ、お金を持続的に確保できるシステム作り

活動資金がほしい。

人、資金、場所。他活動者、支援者との連携。

ボランティア保険料！

そこが、年間のコストとしてかかるので、その支援さえあれば！

新規や拡大のための助成金だけではなく、継続のための安定した助成金が必要

会場を安定的に提供して貰えることと、食費の補助金

コロナ禍以降、配食型が定着し、会食型の開催が難しかったのですが、徐々に開催回数を増やしています。発展のために、こども達のロコミや保護者の理解がこれからも必要だと思います。

運営資金の助成金の申請と報告の簡略化です。

信用できない団体もあってのことだと思いますが、子どもや子育て中の保護者を応援したいボランティア団体なので開催時に抜き打ちで見に来ていただいてもいいので実際に活動を継続しているところにはもう少し時間のかからない書類の形式を考えていただきたいと思います。

資金援助、補助金案内サポート

私たちは恵まれた環境にあり、場所を提供してくださる企業、材料を提供してくれる地域の方、参加してくださる地域の方、設立して1年5ヶ月順調に開催させていただいています。

次世代に引き継ぐ事を考えたら不安はきりがありませんが今を大切にし参加者もスタッフも楽しく、無理をしないで開催できるように続けていけたらと思います。

助成金や食品等のご支援はとてもありがたいです。本当に助かっています。ありがとうございます。でも、とにかく行政、社協の方々が気にかけて下さってるということが何より一番大事じゃないかと思っています。これからもどうぞ宜しくお願い致します。

子どもは、一人でも参加者がいれば実施することが大切と感じている。

心遣いと会話で関係を作っていく

資金援助、ボランティアスタッフの紹介

資金面

- ・保健所の衛生管理講習はあったが、スタッフ全員が受講できている訳ではないため、衛生管理についての知識を得る機会がもっとあればいいなと感じました。
- ・人が集まると、場所の確保が難しいので、イベントや子ども食堂で使える、フリースペースのような、地域の人が気軽に集まることのできる場所があるといいなと感じました。
- ・個人的な意見ですが、この団体が学生主体で運営しており、参加者の方に防犯面や安全面での配慮が完全にはできていないと感じるので、何か防犯面で安心できる場所や、人がいればいいなと感じました。

現在月2回会食型子ども食堂を開催しておりますが、行政からの補助金は月1回分しか出ていません。月に数回開催する団体に対しても支援が出るようになれば活動の幅も更に広がっていくかと思われます。

新規団体、継続団体を問わず食材や補助の情報提供、助成等の申請手続きのサポート・簡略化、実務レベルでの会計・運営知識の提供やサポート、団体相互協力の支援、地域への広報協力

さまざまな種別（金額や使用目的など）の助成金。

継続的な資金調達。

財政的支援のほか、他団体との交流を通してそれぞれの知恵を共有できるようにしてほしい。

会食型とパントリー型のハイブリッド形式。

安心して継続的な補助金支援

メニューへの食材費用と豊富なメニューにするための施設環境を整えられたらと思う

本当に支援が必要な貧困家庭への食事提供が、どのような形で楽しく食事をして頂けるかを課題にしている。ご家族全員が豊かになるような食事会を提供したい

学校の一部を開放し、学校内で行うなど、学校を中心にした地域作りができるとうり良いのではないのでしょうか。

また高齢の方や遠方の学童にも来てもらいやすいように、送迎やバスの運行など。

公共施設の使用の無料化と、積極的な貸し出しと広報。

いまはボランティアスタッフとしてお手伝いしてもらっていますが、少額の謝金を出してあげたいです。朝9:00～4:00まで動いてもらっても無償なので、だんだん人数を確保するのが難しくなります。

子ども食堂が町の児童の居場所となるように行政の応援をお願いしたい。

若い方の協力者が必要と思います

ボランティアで活動している方がほとんどなので、自らこんな活動をしているというPRは弱くなる傾向があるのでは？と思います。

PRを市や社協さんのお力を借りられたらもっと地域の方々に知ってもらえると思います。

会食したいです。子どもと話すおじいちゃん、おばあちゃんの姿がみてみたい

やはり資金面が問題

スタッフは皆さん協力的で助かっています。

経済力、場所があればうれしい

まだ、こども食堂を知らない人がいるので、TVでおすびえがして下さっているCMを増やしてほしい

現在の社会情勢がこども食堂を生み広がっていて、様々な点で拠り所となっており、それは結構なことだと思う。しかし、そもそもこども食堂を必要としない社会になるべきだと感じるので、こども食堂の発展はそういった観点では望ましくないと思う。

ただ、直ぐに社会が変容するわけではないので、現在のこども食堂運営にはやはり資金が必要だと思う。

感染症対策、食器や食材など運営費、スタッフの充実

料理にそんなに自信があるわけではないので、簡単、おいしい、ステキな盛り付け方等を教えてもらえる教室を開いてもらえると勉強できて嬉しい。

参加者が徒歩で参加できるように小学校区に1箇所くらいこども食堂が開催され、こども食堂への認知度が上がり、参加することへのハードルが下がるように行政や社協が支援してほしい

資金、運営へのスーパーバイズ

会食がしやすくなるように、設備を充実させる支援金が、なるべく簡単な申請で頂けるとすごくありがたい。

当こども食堂では、日中はデイサービスのフロアとして使っているスペースを使用している。そのため、こどもたちがゆっくりとくつろげるソファがあったり、皿洗いや料理・盛り付けを手伝えるスペースがあるので、開催場所に関しては困っていない。だが、会食型のこども食堂の開催には、食材だけでなく継続して利用できる場所の確保や提供があると継続しやすいのではないかと思った。

行政の強力な支援

スタッフの継続のため、慰労資金の支援

子ども食堂の設立・運営に際しての問題は、「資金・開催場所・スタッフ」であるが、当食堂では、幸いに何れも一定程度解決することが出来た。他方、後援組織の無い場合や個人で設立・運営する場合、非常に大きな障壁となるものと考えられる。

ネットワークや社会福祉協議会などの支援で、各食堂の交流会や、情報交換の場を積極的に設けることが必要であろう。各食堂で、どのような課題があり、如何にして対応しているかを知ることは、非常に有効と考える。

地域や企業様などの協力の輪をこれからも拡げて持続させていく

市を通じた国の補助金で運営費が±0となるよう現状を維持いただきたい

調理のレシピの提案があれば、レパートリーも増えると思います

当食堂自身の問題では、会食にすることで人数の増加に伴う場所の問題があり、今、役場に提案やお願いをしているところです。

広報活動の支援

安定的な食材提供や、活動資金確保

定期的な活動資金の確保。
先導となる子供食堂の指導的立場の方がいてほしい。

お金の余裕が一番大事です

活動資金

まだ初めて間もないので現実的にお金の面で続けていけるか少し心配です

移動支援ができれば、お一人でも多くの方にご参加していただけたらと思うのですが。

お母さん同士の関わりが深くなると、食べて帰る方も多くなると思う。
ちょっとしたカフェコーナーを設けて、お茶して会話して帰っていただく

地域住民さんの理解と協力。活動資金、活動団体同士の繋がり。

費用の助成ありがたい

ここに来れば誰かがいる、一人で寂しくないような居場所づくり

ボランティアを確保すること

当地域も高齢化が進んでいて若い世代との交流も少なく、子供たちとのふれあいも少なく感じます。そこで当会館のような施設をもっと多くの世代の人々が利用できるように、施設が古く照明やトイレなどの設備も古いので、明るくきれいにするための維持管理ができる支援をして頂けたらと思っています。

- ・定期的な提供先の確保が難しいです。
- ・若い世代のスタッフさんの協力をあおぐためにはどうしたら良いか模索中です。

まだ会食型ではないけれど、行政として場所の提供があればと思う。

長期に渡りの援助やボランティアの助け

資金と人員の確保

地域の公民館を借りるためのハードルが高すぎて難儀していた。
こども食堂への理解が乏しい。特に高齢者の方が…
公民館などこども食堂開設に当たり優遇されるべき。

金銭面での補助があればありがたいです。

実際に困窮している子供たちの発見

140人分の会食型にするには場所が狭く混雑すると大変。また配膳や皿洗いのことを考えると大変なのでできていません。しかし、特に希望者にはテーブルを準備して食べてもらうことも考えています

皆が子ども食堂にきて、楽しかったとかホッとできたと思ってもらえるよう、楽しい雰囲気の中で進めていきたい

発展？ 継続は安定した食材提供かなど。

ボランティアの人集めが必須

食材等のパントリーも含めたことも必要かもしれない

物価高騰から支援もいろいろしていただいています。継続的にスーパーで使えるポイントや商品券などで少しでも長期にわたる支援が必要

設問18 こども食堂の活動のなかで、感じていることや考えていること、今後やってみたい こと等があればお書きください

活動している建物が小さいので、受け入れのキャパを超えた時どうするかを今後検討しなければいけないと考えています。

発達障害の子どもたちの支援

毎回たくさんの方に参加して頂いていて、やはり小学校地区に1つはこういう場所が必要なのではと感じています。こども食堂も「ごはんを食べられる場所」というよりは「地域の居場所」としての役割が今後は大きくなっていくのではと考えています。

フードパントリーに興味があり、当食堂でも今後実施できればと考えています。

お母さん同士の交流や、地域の人と関われるような活動を考えている。

配食だとあっという間に配り終えてしまって交流がありません。少しでも滞在できるような工夫をしていきたいです。

参加者の中には、不登校の子どももいるため、平日など学校のある時間の学習支援や居場所提供も必要だと感じています。

回数を重ねる毎に子どもの数が増えてきました。少しでも子育てを支援、応援できる様に努力したいと思います。

当団体では、子ども食堂の他に、フードパントリーと居場所cafeの併設企画や、農業体験企画など、食を通じた新たな取り組みにも力を入れています。

活動拠点が、フードバンクの事務局と重なっていることもあり、今後は食品ロス削減など、持続可能なまちづくりのために資する活動ができればと考えています。 当市に來れば、食で困窮することはないと認知してもらえるように広報活動にも注力していく所存です。

今後も引き続きこども食堂やフリースクールなどの居場所は継続していきたいです。今、高校生や大学生のボランティアさんが増えてきているので、こどもによるこども食堂を考えています。体験・体感を通して得る学びや喜びをどんどん子どもたちにしてほしいと思います。

スタッフに祖父母世代、父母世代が加わり奈良の郷土料理を子ども達やその保護者に伝え、交流を図りたい。

親子の居場所づくりがあればいい。いつでもいける場所があればいいですね。

月に1回では、本当に困っている人にとどいているのか。と思います。

ご支援の形もさまざまになり、貴重な体験をさせていただいたり有難いです。ただ、この形でボランティアが運営を続けるには限界が近いと感じています。気持ち、体力、自己負担の持ち出し…が

熱い気持ちだけでは持たないかな…と感じています。

子どもたちが将来に夢を描けるようなこと

コロナが落ち着いたので、いろいろな事にチャレンジしたいです。

引き続きこの子ども食堂の継続を深めたい。

私どもの団体はコロナ禍に始まったため、現在はパントリーでの活動が定着しつつありますが、今年度より会食の機会も増やししながら、今後も両方での形を続けたいと考えています。あと、資金等に余裕があれば、学習支援として学校等での必要な物を提供できる機会があればと考えます。

始めたばかりなので、とにかく継続していくことが大切と感じている

参加者の人数が多いことよりも、人数を絞ってでも、参加者同士、参加者ボランティアスタッフとの交流ができる、ふれあいができるような内容

疲れてきてしまっています。過疎地域では、続けることが難しい

もう少し小規模で時間帯もあまり制限せず、子どもの来やすい場所で気軽にできれば、もっと一人一人の子どもと密に触れ合えるのではと考えています。

こども（地域）食堂をベースにして、地域の様々な人や団体とつながりたいと考えている。私たちだけが能動的に動くのではなく、食堂に集まる人たちが、それぞれの過ごし方や役割を持ち、したいことを実現できるように、また結果として地区周辺の活気ある地域活動やまちづくりにつながるといいなど漠然と考え活動をしている（活動場所が私設公民館化するといいなど考えている）。

コロナ対応で普段通りのこども食堂が出来なかったので、緩和されて、こども食堂だけでなく、季節のイベント等を作り始めています。

先にも書きましたように、地域というものが、どんどん衰退しています。これから新しく繋がりを作り、持続可能な地域づくりができるのは、こども食堂とそのネットワークではないのかな。と感じています。

不登校・ひきこもり、発達障がいの子どもの居場所づくり・教育、経済困窮家庭の子弟への教育

会食で食事提供出来るようにすること

気軽に誰でも参加でき、楽しく過ごせるこども食堂でありたい。また将来的には補助金に頼らない運営ができるような仕組みも作りたい。

子どもの居場所として、活発なこども食堂が各地に増えればいいなという思いで活動を広める活動も2024年はします。

福祉事業所が母体なので、そういう輪も広がればと思っています。そのためには、地域の連携は必須。また、障害のある人もない人も生きやすい世の中にしたい。

虐待やヤングケアラーなど子どもを取り巻く環境の変化にも対応しながら、子どものSOSをだせる大人との関係をつくる場所になることを願う

参加者が固定化しつつあり、新しい家庭の発見につながっていない

子どものサードプレイスとして、重要な存在であること、また、個々の家庭では体験できないことをより多く体験させてあげたい。

活動の輪が広がっていくことは嬉しいことです。

実際、地域のこども食堂の拠点も増えています。他のこども食堂とも協力しあえる関係ができれば、さらにこども食堂の活動やこどもの居場所が増えていくと考えています。今後、他のこども食堂と繋がり合い、年に一度、地域のこども食堂フェスティバルを開催したいと考えている。

会食を再開しましたがパントリーの必要な家庭はコロナ禍で増えて、今も継続が必要ですし深刻になっていると感じます。長くすることでパントリーの家庭と少しずつ話せるようになって来ている家庭もあるので活動を続けていきたいですが会食の手伝いのスタッフも私たちが高齢化や親の介護などもあり、負担を軽くして続ける工夫が必要だと思っています。

こども食堂同士の連携、SNSでのシェア

現状の開催が充実しています。

本当に支援が必要な方への働きかけをなんとかしたい。方法は全く分かりません。それを考えています。

今後は、一人でも簡単に料理が楽しめる料理教室を開催したい。

地域の団体が運営している「ふるさとの森」という山での遊びや創作活動と、子ども食堂をコラボできればと考えている。

実施回数を増やしたい

- ・ありがたいことに参加者の方が増えてきており、それに伴い食数や場所にも限界があり、参加者の皆さんに楽しんで、快適に過ごしてもらうことが難しくなっているなど最近の開催日を通して感じています。
- ・学校のサークルとして活動していますが、簡単に参加できるので、個人のモチベーションの差が大きく、それが他のスタッフの負担や、雰囲気作りに影響していると感じており、どうすればうまく全体をまとめられるか模索しています。
- ・大学の公認で活動させていただいているので、大学の他団体とコラボや、いずれは大学構内または大学近辺で活動できたら、と考えています。

当団体では「食育」に重きを置いており、こども食堂を利用する子ども達でも食べやすいよう調理・味付けしています。長く来てくれている子達は野菜嫌いが減ったり、初めて食べる食材にびっくりしたりと様々な経験をしています。参加されているお母様同士でも友達の輪が広がり、学生ボランティア同士でも横の繋がりが出来ていますので地域の居場所と交流の場としてお役に立てていると感じています。

今後は子ども達の学習支援や親子参加型の体験イベントなどを開催していければと考えております。

- ・食事以外においても、生きづらさを抱えた人たちの居場所として場作り
- ・初対面の人たちが気軽に話せるコミュニケーションツール及びコンテンツの実装
- ・フードチケットの作成、貧困家庭への配布
- ・こどもスタッフ（活動理念啓発・継承のため）

長く続けていくこと。

コロナ前は、朝ごはんを食べてから「音読」をしていたが、感染対策として中止している。春からは再開したい。

単に食事の提供に留まらず、一緒に遊んだり一緒に調理したりして、地域のこどもと大人のつながりを作りたい。

親子料理教室など、食を通した家族の絆づくりを継続していきます。

子ども食堂を通じたまちづくりを強化していきたい

リーダーになる年齢の子どもが何人かいて活動を進めていける方法があれば
(子どもを主体にした活動 したい活動へ・・・)

ただ、食べて帰るのではなく、ワークショップで食事を作ったり、パーティーやお祭りのようなワクワクする食事会にもやってみたい

今は未就学、小学生が対象となっていますが、それ以上の年齢の子ども達にも参加してもらい、様々な年齢層の子たちが自然と交わることのできる場所にしたい。

食事以外に子供たちとのコミュニケーションをもっと取りたい。

今後は子どもの居場所づくり（学習支援）を毎月定期的にしていければと思います。それには有償にならないとなかなかスタッフが集まりません。

子ども食堂は地域に必要である事を感じている人が、まだまだ少ないように思われます。

定期的にイベント（英会話、本読み等）を開催したい

個人的には子どもの居場所として常時開放できて安全な場所として活用していきたいという理想があります。

子どもと一緒に作るおやつ、工作での宝物を残したいです。
かなわないことですが、全員子どもが揃ってほしいと願っています。
2024年桜の時期に子どもも大人も集える場をつくりたいと目標にしたいです。

高齢者とのタイアップ、回数を増加。

カレーなら高齢者の方も好きですが、でも一人暮らしではなかなかつくらないようです。いろんなカレーを順にしていこうかなと思っています。

会食、お茶、寺子屋（勉強）、一人暮らしの老人の方にお弁当を届けたい

子どもたちと一緒にさつまいも畑を作ったので、続けられたら と思う

困っている方が、「困っています」という声を挙げやすい場所にならないといけないと思う。そういった方々と併走する意識が大事だと感じている。

- ・ こどもの一時預かりや子育ての悩み相談
- ・ イライラしない子育て、発達障害とは 等の子育てママ、パパのニーズに合った講習会の開催

無料で実施することの限界。楽しいだけではなく、利用者から嫌なことを言われることもあり、ここまで自分が身を削ってやるべきことなのかという思いと、それでも誰かがやらないといけないという思いで葛藤の日々です。

ルールを守れない人にどう対応すべきか。ルールを丁寧に伝えていくべきなのか、目をつぶるべきなのか、運営チームでも意見はさまざまです。

複合的な問題を抱えている家庭に対する地域でのアプローチ。地域としてどのように、どこまでかかわるべきなのか。

様々な機関と連携して関わるができないか。手探り状態です。

要対協の会議への参加や、行政との情報交換ができればアプローチ方法も統一できるのではないかと考えています。

なかなか困っている家庭に出会えず、やっている意味はあるのかな？と感じることもありました。涙を流して、すっきりニコニコ帰るママたちを見ていたら、心のたすけになっているなら続けていこうと思えました。

今後はシングル家庭に向けての支援や、こどもが本当に食べる時がないときに駆け込めるようなシステムを作っていきたいと思っています。

地域には、こどもさんをたくさん育てておられる家庭や学校に行っていないこどもさんのいる家庭などがあることを知った。

色々な面で地域で子育てを支えるための1つの居場所になれたらと思う。

学習支援。

夏に縁日のようなこども食堂

- ・ 子どもや保護者も参加して菓子作り等、参加・体験型の催しを開催する（なお、広い会場を利用して「菓子作り」はこれ迄5回開催している）。
- ・ 普段の学校や家庭では体験できない形（多様な参加者と共にする）での演奏会や創作活動等のイベントの開催を積極的に進める（音楽会はこれ迄2回開催している）。
- ・ 参加された子供や保護者に加えて高齢者も含め、食後に懇親できる機会を醸成する。

とにかく続ける事を大切にしています

今もやっているが、高齢者が来場する足 としての移動支援

町内でいろいろな場所で実施したいです。(広まるまでは固定の場所で実施したいと考えています)

今後やってみたいことはフリースクールのような勉強、体験の場をもう少し広くやっていきたいと思っています。

孤食など子供達を取り巻く問題はこども食堂を始めた6年前とさして変わらないと思います。

継続して行っていくことが大切かなと思います。

体験型子ども食堂として、プログラミングやスポーツ体験、映画鑑賞会など

高齢者や子ども達とその保護者さんが昔の遊びやお話を聞かせてもらったり、反対に若者の話題を話したりと交流できる場所の提供

こども食堂を他の活動にも繋げていく。

私たちは、地域の特性により子育て世代の支援として、若い世代親御さん子供そして高齢者とのつながりができる場として今後も継続出来る様にしていきたいと思っています。

他団体の子ども食堂さんと合同開催を予定しています。

コロナ禍でのスタートが配食であったため、会食型のスタイルへと移行したいが、配食に慣れた参加者、とくに高齢者は会食を嫌がってしまい会食スタイルに出来なくなっているのが現状。

また、スタッフにも、衛生面やアレルギーの理解など、定期的に再確認、向上していきたいが、年齢層が高いボランティアスタッフに理解してもらうのは厳しい。

まずは、スタッフ内での勉強会もしたいが、スタッフ内にも衛生面の指導者がおらず、指導的立場でないスタッフが注意しても、ご自身の経験だけで判断しているので、食中毒などの面においても、作る量が増えているので、不安がある。

オンラインなどを呼びかけても、時間的に無理な方、難しいこと慣れていない事にはついていけないと拒否反応が多い。無理強いはできないので、士気を下げずに活動につなげようと思うと、毎回変わらない活動となっている。

今後やってみたいことは、会食スタイルにつなげる為、避難訓練での配食を年に数回行いたい。1月に非常食の試食会をしたが、声かけや配布位置が悪く、試食が少なかった。今後も考えながら、導入してみたい。

福祉事業との連携

凝った料理も良いが、おにぎりや味噌汁だけでも良いと思う。

地域の方々にこの地域にこども食堂できないかなと思ってたのよ！と喜んでいただいたことや利用者さん同士も新たにつながりができて、徐々に繋がり縁が広がってきています。

地域の方々、特に一人暮らしの高齢者（65歳以上）の方々にもご参加いただけるよう取り組んでいきたい

今は他の団体と協力して、学生服のリユースもさせて頂いておりますが、子ども服、チャイルドシート、ベビーベットの貸出やフリーマーケットなどをしたい

ほんとうに来てほしい子どもが来ているか？配食やフードパントリーが、とどいているのかどうか？

子ども食堂のキッチンカー♪

やっと定着してきたという感じです。

農家や地域のみなさん、そして社協を通して企業からも支援品が届き、利用者のみなさんから大変喜ばれ、フードロスの観点からとてもいいことだと思う。コロナ禍を乗り越え、そろそろ会食型にして居場所づくりをと考えている。

フードドライブなどできたらと思っています

子どもたちが集えて、お母さんお父さんがふらっと寄れて休憩できる居場所にしていきたい。

本当に貧困な方が来てくれるかどうか

こども食堂は地域の方の居場所作りを目的に始めました。さらに別事業としてごみ拾いボランティア（昼食時こども食堂として食事を提供）や小学生ドッジボールクラブの活動を通して、子供を中心に、地域の方の緩やかな繋がりが育まれてきています。地域社会の関係の希薄さが危惧される昨今、今後もこれらの活動を通して、言葉を交わせる関係をさらに構築していけるよう努力していきます。

楽しみに来られる方がいるので継続ですることが大事

その時々に応じて、7月：ぬり絵、8月：お楽しみ会（最終の土曜日に行い、学校に行きやすいよう、でも無理していかなくてよいことを話しました）、9月：お月見団子作り、10月：ペットボトルのボウリング大会、12月：Xmas会などを実施

だれもがここで繋がれる場所になればと思います

子育て相談や女性相談ができる関係づくり

利用して下さる方との交流や来られない方への支援

設問19 奈良子ども食堂ネットワークについて、加入団体としてどのように取り組んでいきたいかをお書きください。

周辺で活動されている団体と意見交換や連携ができればと思います。

ネットワークを広げていくこと。

他の団体さんとの意見交換の機会があれば参加させて頂ければと思っています。

子ども食堂につながる全ての方（参加者、スタッフ、支援者）が、笑顔で心穏やかに過ごせるような暖かさを目指して活動していきます。皆に必要とされる場所になれるよう、まずは継続して活動し、地域に根付いていくことを目標とします。

発信される情報を活用し、実のある活動をしていきたい。

他の子ども食堂に見学に行きたいです。

各団体の活動状況、課題と課題への方策等についてシェアすることで、それぞれの活動の質を高めていくことができると考えています。

積極的に協力させていただきます。

前の設問でも述べましたが、地域の子どもの食堂としての役割を果たせるように活動を進めます。また、活動日以外でも緊急性のある家庭の支援ができるように対応の幅を広げていきたいと考えています。

アンケートに答えるなどの現場の声をあげることはできるかと思います。また子ども食堂以外の居場所作り事業やイベント運営なども並行しているので何かお力になれることがあればさせていただけたらと思います。

いつも必要な情報を届けてくださり感謝です。ありがとうございます。

今後も継続して取り組みたいです。

地域の子ども食堂の取り組みと連動していけたらいいですね。

この活動の先にあるものが何かを探していきたいと思っています。

できるだけ多くの子ども食堂とつながりたい。

出来るだけ行事などに参加できたらとおもっています。

奈良子ども食堂ネットワークさんからはたくさんの情報を頂いております。それを有効に利用させていただきながら、私どもの活動の中で奈良子ども食堂ネットワークさんにご協力できることがあれば、協力させていただきたいと思っています。

とにかく継続して開催し、少しでも地域の寄り合い所になればと思う

他の子ども食堂の様子や工夫を取り入れるためにも意見交換ができたらと思います。

無理せず、ゆっくり続けていきたい

こども食堂だけに集中した活動の団体ではないので、なかなか実践できていませんが、情報などでいろいろな刺激やまた支援をいただけることに感謝して、積極的に関わっていかねばと考えます。

私たちでご協力できることあれば積極的に参画してまいりたいと考えております。

継続していくこと。

色々な形の子ども食堂を開催しています。たくさんの方に知ってもらえたら、と思っています。

もっとアピールできるように考えたい。

他のこども食堂への支援

他の団体を参考にこれからも活動していきたい

こども食堂の偏見をなくしていきたい。

ネットワーク内で必要な出来ることはしていきます。

年代の垣根を超えた子どもたちの居場所、新しいコミュニティづくりに取り組んでいきたい

色々な情報を頂いて、子ども食堂の運営を充実していきたい。

それぞれの団体の取り組みや情報を参考にしたり、支援情報を利用して頂き、加入させて頂いて良かったと考えています。

色々な支援をして頂くだけでなく、期待にお応え出来るよう『こどもを真ん中に』を積極的に実践して行きたいと考えています。

今後も宜しくお願い致します。

1人の子どもでも1人の保護者でも子ども食堂を知れて良かったと思ってもらえる団体として継続していきたいと思っています。

SNSでの案内シェアの連携

何かお手伝いできることがあればと思います

こちらも助けて頂いているので、事務局の方の要望等には出来るだけきちんと応えたいと思っています。

できる限り、できる範囲で協力させていただきたい。

メールはしっかりと読む

加入しているものの、ほとんど関わりがもてていないので、今後、加入している子ども食堂さんとの交流や情報交換等できればと思う。

他団体との交流、助け合い

私たちは大学生のみで運営しているからこそ、学生目線で、幅広い年代の方に親しまれるような、より良い地域の居場所作りを盛り上げていきたいです。

こども食堂を支援して下さる団体様・企業様からは奈良県産の農作物やご当地グッズやお菓子などを寄付して頂いております。

このような物資を、こども食堂を利用される皆様に食べて頂いたり、フードパントリーを開催してお渡しすることで奈良にはこんな素敵な野菜やグッズがあるのだと認知して頂くことにも繋がっていると感じております。また未利用野菜や賞味期限が近い商品などを配布することもありますのでフードロスの削減にも引き続き努めていきたいと思っております。

当団体は山の麓での屋外開催であり自然との距離が近く、協力団体も林業関係です。特色であり強みでもある環境を活かしながら、地産地消、森林保護、福祉、居場所、多様性、様々に伝えるべきことを食事を通して伝えていきます。

みんなの居場所を作り、そしてその場を維持・発信することは続けていかなければならないと考えております。

当団体の活動が、他のネットワーク加入団体様で参考になる点がわずかでもあれば幸いです。

参加者の選択肢が多くなるよう、県内で食堂を継続していきたい。

当団体の活動を見学したい方、ボランティアで参加したい方は、積極的に受け入れたいと思っています。

今までは余り積極的に関わっていませんでしたが、今後は交流会など積極的に参加させて頂きたい。

引き続きお役に立てる様に宜しくお願い致します。

奈良県が、他府県のモデルケースとなりえるような子ども食堂の運営と、行政、社協などとの連動

情報キャッチやアピールする機会を見出していきたい

他の団体との交流や意見交換などを定期的に行ってみたい

これまで通り、地域に根付いた団体でありたいと思っています。

食材の調達や情報の共有に取り組んでいきたい。

地域に何か所かのこども食堂をつくって、皆でコミュニティがとれるイベントなどできたらいいですね。

加入団体として、もっともっと経験を積んでネットワークの中心となるようにしてゆきたい。

SNS（zoom）で他の食堂ともつながり、工夫していることやメニューなどを聞いてみたい

今は自分の地域だけですが、一箇所でも多くのこの動きをつくってほしいと応援できる側になりたいです。

次々と贈り物のお世話にいつも感謝していますが、物品をいただきに出向くことに問題が出てきて正直残念な想いも度重なっています。

着払い等で送っていただくことは不可能でしょうか。ご検討ください

県内のことでも地域性でかなり違うと思います。

生活困窮者（家庭）が少ない我が地域ですので、他地区との差があると思います。

同じような地域の情報も知っていかなくてはと思います。

基本は地域の人にやさしく、それぞれの参加団体が特色を持って活動し、つながっていくことが大切だと思う。

1年に1回は話し合う機会があったが、今は私自身が行事に追われていて参加できていないので、もう一回増やしてほしい。

ネットワークとは常に連携して、リアルな困りごとに対応できるよう取り組んでいきたい。

いつも多くの情報をいただいて有難いです。こども食堂として利用させてもらえるのがあれば、活用していきたいと思います。

奈良県下でこども食堂がある地域に差があり、市外からわざわざ足を運ぶ方が大勢いることを知り、難しい課題とは思いますが、加入団体で協力してこども食堂のない地域へ出張こども食堂を開催できたらいいと思います。

子どもの食堂の継続、発展

まずは利用者さんたちの安全第一で、安全な食を提供できるようにつとめます。

その上で地域にこの場所があってよかったなと思ってもらえるように長く続けて参ります。いつもありがとうございます。

当こども食堂では、孤食や栄養が偏ってしまっているこどもたちだけでなく、誰もが集える場所を目指しています。また、こどもたちだけでなく、毎日食事作りをされている保護者の方も一息つける居場所を作っています。

コロナ禍もあけて、各食堂がどのように活動されているのか、参考にさせていただきたいと思っています。

意見交換の場など大切にしたいです

当こども食堂の活動内容で補助金が簡単に申請できて、月1万円でも出していただくと、例えば移動支援の拡張などのサービス向上 ができるのかな？

当こども食堂が広まること（先ずは地元で広めていきたい）全国にある地域食堂のひろまり実施するうえで、わからないことなど知らないことも多いので、何かあればご相談させていただくことがあると思います。よろしくお願いいたします

仕事と育児で、中々時間がないですが、参加できる時はセミナーや共有出来る会などに参加していけたらと思います。

既存の月1回や2回の開催ではなく、食事以外の社会体験やいつでも安心して食事ができる多数の子ども食堂との連携

いつも、ありがとうございます。

ボランティアスタッフが少なくそれぞれ多忙で加入団体としてお世話になるばかりで申し訳ありません。大きなことはできませんが、子供食堂をなるべく継続していけるようにコツコツと地道に活動できたらと考えています。よろしくお願いいたします。

地域や他の団体の活動から影響をうけたいです

今後も地域のみなの居場所としてこども食堂を続けて行けるように試行錯誤しながら頑張ります

今後も少しでも長く続けていけるように頑張っていきたい

皆さまの活動を参考にさせて頂きながら、情報も交換させて頂く。ずっと続けていけるよう、取り組んでいきたいと思っております。いつもお世話になり、ありがとうございます。

加入させてもらっていると、情報や保護者さんからの信用問題は、感じますが、取り組み？はできていません。あまり理解できていません。すみません。

心地よい居場所づくりを進めていきたい。

信頼関係を築きたい

他のこども食堂の活動を学ぶ機会を増やしたい。

いろいろな情報を頂いていますので、今後とも参考にして当こども食堂でも取り入れていきたいと思えます。そのためにも我々の方からも、色々な情報発信ができるように何とか当こども食堂のホームページを立ち上げたいと思っています。

まだ始めて二年弱ですので、色々なことを模索しながら開催しているのが現状です。子ども達の為により良いものにながら、継続していけたらと思っています。

こども食堂と言ってもいろいろな形があるので、他市町村のことも学びながら、こども食堂の進む方向を決めていければと思う。

ネットワークによる他団体との交わり

他のこども食堂さんに関わって、情報提供していきたい

始まったばかりでネットワークの方に助言いただきながら一回目を実施することが出来た。また、食堂を開催される団体があれば協力します。

今後とも地域の方に喜んでいただける活動を行っていきます。さらに多くの方に認知していただけるよう取り組んでまいりたいと思います。

困窮家庭の支えになるように活動していきたいです

今は他団体との連携よりも自分たちの活動を維持・継続する事のみ必死になっています

- ・月1回の子ども食堂ですが、1回毎に計画を立て、ボランティアさんが動いてもらいやすいよう考え、流れをシミュレーションしています。
- ・1回1回終わり毎、テストが終わった後のように大変ですが、充実感があります。

今日はみんなで食堂にいこう！というイベントの日を作りたい

私自身の体調が悪く閉めざるをえません

地域に住んでいない方に『近くにこんなこども食堂がありますよ！』とネットワークに入っているからこそその知り得た情報を伝えていきたい

IV 調査票様式（参考）

「奈良県内子ども食堂の活動に関する実態調査」（2024年1月）

- あなたの運営する子ども食堂について、以下の設問にお答えください。
各設問ごとに該当するものに○をつけて、（ ）内には、具体的に記述してください。
 - なお、1つの団体・個人で、複数の子ども食堂を運営されている場合は、子ども食堂1カ所につき調査票を1つ使用し、ご回答下さいますようお願いいたします。
- はじめに、本調査に関するお問合せ担当者氏名、連絡先（日中に連絡可能な）電話番号をご記入ください
- ・担当者氏名（ ）
 - ・連絡先電話番号（ ）
1. 子ども食堂の名称と運営団体名をお答えください
- ・食堂の名称（ ）
 - ・運営団体名（ ）
2. 子ども食堂の運営主体の属性をお答えください
- 1) 任意団体（ボランティアグループ等） 2) NPO法人 3) 社団・財団法人
4) 社会福祉法人 5) 個人 6) その他（ ）
3. 子ども食堂の活動場所についてお答えください
- 1) 地域の公民館・集会所 2) 公共施設（福祉センター・文化会館等）
3) 店舗・商店街 4) 福祉施設（老人ホーム等） 5) 寺院
6) 自宅・借家 7) その他（ ）
4. 2023年4月以降の活動状況について、
この期間の主な活動をお答えください。（該当するもの1つに○）
- 1) 会食型の子ども食堂を開催（コロナ前と同じように開催）
 - 2) 会食型の子ども食堂を開催（人数制限、屋外実施等コロナ前とは異なるカタチで開催）
 - 3) お弁当や食材等を配布（取りに来てもらう）
 - 4) 食材やお弁当を宅配（自宅へ届ける）
 - 5) 会食型の子ども食堂と配布（取りに来てもらう）を両方実施
 - 6) 会食型の子ども食堂と宅配（自宅へ届ける）を両方実施
 - 7) 活動を中止していた
5. 子ども食堂（配食・パントリー含む）の参加対象者についてお答えください。
（該当するもの全てに○）
- 1) 未就学児 2) 小学生 3) 中学生 4) 高校生
5) 保護者 6) 地域の高齢者 7) 誰でも参加可 8) その他（ ）
6. 子ども食堂（配食・パントリー含む）の参加者数（子ども／スタッフ含めた大人）は、
1回あたり約何人（平均）ですか。
子ども：約（ ）人 / 大人：約（ ）人

7. こども食堂の利用料金についてお答えください。

※会食と配食・パントリーで利用料金が異なる場合はそれぞれお書きください。

	会食での実施の場合	配食・パントリーでの実施の場合
①こどもの利用料金	() 歳未満 円	() 歳未満 円
②大人の利用料金	円	円

その他の料金形態がある ()

8. こども食堂（配食・パントリー含む）の活動頻度についてお答えください

- 1) 月1回 2) 月2回 3) 月3回 4) 週1回
5) 週2回 6) 週3回以上 7) その他 ()

9. こども食堂（配食・パントリー含む）開催でのお悩みについてお答えください。

（該当するもの全てに○）

- 1) 感染症対策が難しい 2) 資金の不足
3) 会場に関すること（利用制限など） 4) 食中毒を含めた衛生管理の対応が難しい
5) スタッフ・ボランティアの不足
6) スタッフ・ボランティア内の共通理解を得るのが難しい
7) 周囲（地域など）の理解を得るのが難しい
8) その他 ()

10. こども食堂（配食・パントリー含む）開催時に利用者数の調整はしていますか。

している場合、その方法はどのようなものですか。（該当するものに○）

- 1) 何もしていない 2) 先着順にしている（予約申込なし）
3) 予約申込制にしている（食数を限定し先着）
4) 予約申込制にしている（食数を限定し抽選）
5) 予約申込制にしている（食数の制限なし）
6) その他 ()

11. 会食型でのこども食堂を実施する上でのお悩みをお答えください。

会食型でのこども食堂の実施をしていない場合はその理由としてお答えください。

（該当するもの全てに○）

- 1) 感染症対策が難しい 2) 資金の不足
3) 会場に関すること（利用制限など） 4) 食中毒を含めた衛生管理の対応が難しい
5) スタッフ・ボランティアの不足
6) スタッフ・ボランティア内の共通理解を得るのが難しい
7) 周囲（地域など）の理解を得るのが難しい
8) その他 ()

12. こども食堂（配食・パントリー含む）を開催するにあたり、広報・情報発信として、どのようなことを実施しますか。（該当するもの全てに○）

- 1) チラシ・ポスターの作成 2) 自治会での回覧 3) 学校への案内
4) 市町村や社協の広報紙に掲載 5) SNSの活用 6) イベントでのPR
7) その他（具体的に；)

県内子ども食堂の活動に関する実態調査 報告書

発行日 令和6（2024）年6月

発行 社会福祉法人 奈良県社会福祉協議会

〒634-0061 奈良県橿原市大久保町320-11

TEL 0744-29-0100

URL <https://nara-shakyo.jp/>

